

平成 29 年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 法人本部

平成 29 年度は改正社会福祉法の施行と共に始まり、改正法への対応作業は、当法人にとって蓄積した諸課題についての具体的な改善を求められる内容とも表現できるものであった。多拠点展開の中での法人のガバナンスの強化に向けては、新たな役員体制として、理事長のほか専務理事・常務理事 2 名の業務執行理事を設置し役割を分けることで、確実かつ迅速な法人の課題解決を目指した。また役員体制の刷新を契機に、福祉施策の動向や法人の現状・課題などを改めて整理し、理事会の中ではまとまった時間が割けないため、初めてとなる役員研修会を実施して共有を行った。

法人運営委員会の諮問機関として各拠点長や役職者を中心に組織されていた統括責任者制会議を再編し、人材・事業推進・組織運営の 3 つの部門統括会議とし、法人運営委員会のメンバーである専務理事・常務理事・事業推進部長をそれぞれ責任者として動かすこととなった。法人が作成している中期計画である 3 か年計画が最終年度ということもあり、部門統括会議を柱とした次期 3 か年計画の指針を策定し、第三期目となる 3 か年計画を取りまとめた。

改正法の柱でもある「地域における公益的な取組」についても、既知の各拠点の活動を、法人として集約し発信するという部分で本部機能の弱さが露呈した。平成 30 年 1 月に要件が見直された際に法人内の活動を整理し直したが、これらをしっかりと内外に発信するところまでを果たしていかななくてはならない。

前年度から進めていたパンの缶詰製造の 2 つ目の工場建設、また緑風拠点の新棟建設に向けた動きは、紆余曲折を経ながらも少しずつ前進している。前者は着工し、40 名の利用者を迎える就労継続支援事業 B 型として平成 30 年 7 月に竣工予定である。また、後者は名古屋市との協議を重ね、就労継続支援事業 B 型事業を既存建物から分割する形で建設することとなった。こちらは平成 30 年度中に計画を固めて着工し、年度内の建物完成を目指す。

平成 28 年 6 月の複数の施設長の異動を伴う組織変更から 1 年を迎え、次年度に向けて、各事業の中核的な存在である係長職を中心とした人材のキャリアアップと組織活性を図るための異動を検討してきた。各部署の核となる人材ゆえに早めの事前準備により事業への影響を及ぼさないよう配慮しながら進めた。

新卒採用活動は、1 年を通じて継続し、若手職員から成る採用促進委員（リクルーター）の活動により平成 30 年 4 月には 8 名を迎えることとなったが、福祉分野を志望する母数の少なさに加え、法人の多職種ゆえの求職者の希望とのマッチングの難しさや、年々早まる採用活動の動きへの対応も迫られ、柔軟で素早い判断の必要性を感じている。

1 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 評議員会の開催状況 (計3回)

開催年月日	議 題
平成 29 年 6 月 13 日 (火) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 28 年度 決算(案)について 第 2 号議案 役員を選任 (案) について 第 3 号議案 定款変更 (案) について 第 4 号議案 会計監査人の選任 (案) について 第 5 号議案 役員報酬の額および支給の基準 (案) について
平成 29 年 12 月 7 日 (木) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 平成 29 年度 第一次補正予算 (案) について 第 2 号議案 基本財産の処分について 第 3 号議案 建設資金の借入れおよび基本財産の担保提供について
平成 30 年 3 月 29 日 (木) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 平成 29 年度 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 30 年度 事業計画・収支予算 (案) について

イ 理事会の開催状況 (計 12 回)

平成 29 年 5 月 24 日 (水) 午後 2 時 00 分 名古屋国際会議場	
議 案	第 1 号議案 平成 28 年度事業報告・決算 (案) について 第 2 号議案 定款変更 (案) について 第 3 号議案 評議員選任候補 (案) について 第 4 号議案 役員選任候補 (案) について 第 5 号議案 会計監査人選任候補 (案) について 第 6 号議案 役員等の報酬の額および支給の基準について 第 7 号議案 定時評議員会の招集と議案について 第 8 号議案 諸規程の改定について 第 9 号議案 明和寮拠点 修繕にかかる指名競争入札について (報告) 理事長等の職務状況・理事長専決事項
主な発言	会計監査人候補については、委員会を設置して候補者より選定した。 役員報酬は実態と異なる部分があるので修正が必要。
平成 29 年 6 月 5 日 (月) 書面による全員の同意により決議	
議 案	第 1 号議案 「役員等報酬規程」の修正について
平成 29 年 6 月 13 日 (火) 午後 3 時 45 分 メルパルク名古屋	
議 案	第 1 号議案 理事長および専務理事、常務理事の選定について 第 2 号議案 会長および相談役について 第 3 号議案 会計監査人の報酬について 第 4 号議案 諸規程の改定について

	第5号議案 港ワークキャンパス設計管理委託契約の変更
主な発言	正規職員と契約職員の就業規則は分けるべき。あくまで投資は社会福祉法人としてリスクのない物で運用すべき。
平成29年8月10日(木) 書面による全員の同意により決議	
議案	第1号議案 瀬古第一マザー園における多床室のプライバシー保護のための改修整備事業の実施について 第2号議案 第1号議案にかかる、設計管理委託契約業者の選定について
平成29年8月29日(火) 午後1時20分 名古屋ライトハウス本部	
議案	第1号議案 緑風 名古屋市への整備協議書提出について 第2号議案 諸規程の改定について 第3号議案 明和寮 修繕工事の追加事項について
主な発言	有価証券の運用については、目的である基金事業の収支安定のための具体的な基準を明確にすること。
平成29年10月14日(土) 午後2時30分 アイリス愛知	
議案	第1号議案 瀬古第一マザー園における多床室のプライバシー保護のための改修整備事業の実施について 第2号議案 資産運用規程の改定について
主な発言	資産運用方針については、理事会の承認事項とする。
平成29年11月14日(火) 書面による全員の同意により決議	
議案	第1号議案 瀬古第一マザー園プライバシー保護を目的とした間仕切り新設等改修工事施工業者との契約について
平成29年11月28日(火) 午前10時00分 名古屋国際ホテル	
議案	第1号議案 平成29年度上半期事業報告・中間決算(案)について 第2号議案 第一次補正予算(案)について 第3号議案 諸規程の改定について 第4号議案 評議員会の招集(12/7)と議案について 第5号議案 基本財産の処分について (報告) 理事長等の職務状況
主な発言	港ワークキャンパス第二工場建設工事に関して、規程に基づき随意契約としても、公正な手順に則り、理事会での議案としての審議が必要。
平成29年12月7日(木) 午前10時30分 名古屋ライトハウス本部	
議案	第1号議案 港ワークキャンパス第二工場の建設計画について 第2号議案 基本財産の処分について 第3号議案 建設資金の借入れおよび基本財産の担保提供について
主な発言	港ワークキャンパス第二工場建設に関して、当初計画からの完成予定時期や資金計画の変更について

平成 30 年 1 月 15 日 (月) 午前 10 時 00 分 名古屋ライトハウス本部	
議 案	第 1 号議案 港ワークキャンパス第二工場の建築業者の承認と契約について 第 2 号議案 設備資金の借入先と借入額について
主な発言	港ワークキャンパス第二工場建設業者決定のプロセス、見積業者の選定基準についてのルールの明確化
平成 30 年 2 月 19 日 (月) 書面による全員の同意により決議	
議 案	第 1 号議案 瀬古第一マザー園における多床室のプライバシー保護のための改修工事の一部変更及び当初契約額の変更について
平成 30 年 3 月 19 日 (月) 午後 1 時 45 分 名古屋市中小企業振興会館	
議 案	第 1 号議案 平成 29 年度 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 第三期 3 か年計画 (案) について 第 3 号議案 平成 30 年度 事業計画・収支予算 (案) について 第 4 号議案 平成 30 年度 資産運用方針 (案) について 第 5 号議案 緑風の建物違法解消のための協議について 第 6 号議案 諸規程の改定について 第 7 号議案 評議員会の開催について
主な発言	3 か年計画など拠点共通の課題は本部で調整する必要。緑風拠点の施設整備については交渉前に疑問点の解消と行政の説明を求める。

ウ 評議員選任・解任委員会の開催状況 (計 1 回)

開催年月日	議 題
平成 29 年 5 月 24 日 (水) 午後 4 時 45 分	第 1 号議案 評議員の選任について

エ 法人運営委員会の開催状況 (計 19 回)

開催年月日	議 題
平成 29 年 4 月 14 日 (金)	統括会議再編について 新評議員について
平成 29 年 6 月 20 日 (火)	新体制の手續と周知について 新体制における諸会議について 夏季賞与について 資産運用委員会より 基本方針及び今年度運用方針について
平成 29 年 7 月 3 日 (月)・19 日 (水)	新体制の手續と周知について 法人本部機能強化 法人職員研修会について 資産運用委員会より 施設長会の運営について

	各拠点会議体への参加について 理事会の開催について
平成 29 年 8 月 8 日 (火)・21 日 (月)	資産運用委員会より 資産運用方針について 選挙情報支援プロジェクト (ロゴス: 高橋館長・日ラ: 橋口常務) との話し合いについて 理事会の開催について 施設長会の運営について 愛西市からの要請について
平成 29 年 9 月 4 日 (月)・21 日 (木)	光和及びりよくふう障害者相談センターの再編について 役員研修会について 施設長研修会について 資産運用規程、運用方針等について 次回 (半期) 評議員会、理事会の開催について 理事会議案の同意取り付けについて 職員研修会の内容について 人事に関わる案件 建物更新に関わる調査について
平成 29 年 10 月 2 日 (月)・27 日 (金)	理事会議案の同意取り付けについて 理事会 (10/14) 後の議案整理について 役員研修会の内容について 人事に関わる案件 部門統括より 社会貢献事業について
平成 29 年 11 月 6 日 (月)・21 日 (火)	理事会、評議員会の開催について 部門統括 (組織運営) (人材) (事業推進) より 冬季賞与について
平成 29 年 12 月 4 日 (月)・20 日 (水)・27 日 (水)	理事会、評議員会の開催について 港ワークキャンパス第二工場建設工事について 部門統括より 冬季賞与について
平成 30 年 1 月 12 日 (金)・23 日 (火)	来年度事業計画及び予算編成方針について、次期 3 か年計画に ついて 平成 30 年度人事異動決定後の動き 港ワークキャンパス第二工場建設工事について 部門統括より
平成 30 年 2 月 5 日 (月)・28 日 (水)	来年度事業計画及び次期 3 か年計画について 監事監査報告より 平成 30 年度人事異動決定後の動き 3 月理事会、評議員会について 緑風整備事業の進捗について

	部門統括より 資産運用委員会より
平成 30 年 3 月 12 日 (月)	3 月理事会、評議員会について 平成 30 年度人事 部門統括より 資産運用委員会より

オ 施設長会議の開催状況 (計 12 回)

開催年月日	主 な 議 題
平成 29 年 4 月 19 日 (水)	各拠点報告・実績報告・決算・統括会議報告について 一括採用活動の報告 (インターンシップについて)
平成 29 年 5 月 22 日 (月)	各拠点報告・実績報告・決算について 法人運営委員会より 5/24 理事会について 一括採用活動の報告 29 年度法人職員研修会について
平成 29 年 6 月 20 日 (火)	各拠点報告・実績報告・決算について 法人運営委員会より 一括採用活動の報告
平成 29 年 7 月 19 日 (水)	各拠点報告・実績報告について 法人運営委員会より 一括採用活動の報告 9/2 法人職員研修会について 事業推進部門より
平成 29 年 8 月 21 日 (月)	各拠点報告について 法人運営委員会より 部門統括会議より 上半期人事考課について グローイングアカデミー活用のお願ひ
平成 29 年 9 月 21 日 (木)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より 法人一括採用からの報告について 中間決算・第一次補正予算について 中間決算・上半期事業報告・第一次補正予算について
平成 29 年 10 月 27 日 (金)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より ストレスチェックについて 社会貢献事業について
平成 29 年 11 月 21 日 (火)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より ストレスチェック集団分析について

平成 29 年 12 月 20 日 (水)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より
平成 30 年 1 月 23 日 (火)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より 第三期 3 か年計画（総括）について 人事考課・昇格昇進について
平成 30 年 2 月 28 日 (水)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より 平成 30 年度報酬改定について 労務関連制度の見直しについて
平成 30 年 3 月 15 日 (木)	各拠点報告について 法人運営委員会より・部門統括会議より 3/19 理事会・3/29 評議員会について

(2) 登記事項

法人 公益事業にかかる「目的等」表記変更登記 平成 29 年 4 月 3 日登記
 代表者変更登記 平成 29 年 6 月 26 日登記
 平成 29 年度資産変更登記 平成 29 年 6 月 26 日登記

(3) その他

① 国兼基金事業

物故者慰霊祭 平成 29 年 10 月 14 日

② 補正予算

・ 第一次補正予算 平成 29 年 11 月 28 日 理事会承認
 平成 29 年 12 月 7 日 評議員会承認
 ・ 第二次補正予算 平成 30 年 3 月 19 日 理事会承認
 平成 30 年 3 月 29 日 評議員会承認

③ 役員研修会

平成 29 年 10 月 14 日

「福祉施策の動向と名古屋ライトハウスの現状と諸課題について」

④ 職員研修

・ 法人基礎研修 参加 24 名 平成 29 年 4 月 4・5 日、10 月 3・4 日
 ・ 職員全体研修（会場 ホテルルブラ王山）参加 205 名 平成 29 年 9 月 2 日
 各拠点実践報告
 グループワーク「福祉職員として目指す姿」
 「地域から見た福祉職員」 など

2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

(1) 助成に関する特記事項

愛知県共同募金会 — 名古屋盲人情報文化センター
 ボランティア研修事業補助金 600,000 円

公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団

－ 明和寮 印刷事業自動裁断機整備助成金 2,200,000 円

一般財団法人荒川磯慈善会

－ 緑風 作業現場椅子 65 脚 500,000 円

(2) 寄付に関する特記事項 (順不同)

坂文種報徳会 様	500,000 円 (法人)
匿名	30,000,000 円 (法人)
故川地鉦一様ご家族様	13,630,130 円 (法人)
武沢 昇 様	300,000 円 (法人)
中島 真太郎 様	105,000 円 (国兼基金)
中島 玲子 様	100,000 円 (明和寮)
阿部 武男 様	150,000 円 (戸田川グリーンヴィレッジ)
藤澤 加代子 様	200,000 円 (戸田川グリーンヴィレッジ)
篠田 政幸 様	200,000 円 (戸田川グリーンヴィレッジ)
その他 51 件	合計 45,989,655 円

3 地域貢献活動

(1) 『視覚障害者支援室』

当年度より、支援室担当の職員が名古屋盲人情報文化センターへ異動となった。光和寮拠点より 1 名 (非常勤職員) が支援室職員として異動し、相談・講座・講師等を中心に引き続き地域の視覚障害者の情報拠点として活動した。

① 生活支援や就労支援の相談

問い合わせのあった方の相談において、当施設内で対応できる場合は各部署へ、対応できない場合は他施設等を紹介した。

② 講座の開催、講師派遣

- ・地域向け講座の開催：最新電子レンジを活用した料理教室、光和寮と共催の料理教室の開催
- ・講師派遣：福祉の里 (同行援護従業者養成研修)、介護労働安定センター (初任者研修)、小学校等
- ・光和寮拠点「クリエイト川名 (地域活動支援事業)」の I T (パソコン、スマホ等) 講座への支援。

③ 地域の福祉ネットワークの構築維持と積極的な参画

- ・昭和区自立支援協議会当事者部会への参加
- ・スマートサイト愛知の維持 (愛知県歯科医師会の見学対応など)
- ・名古屋視覚障害研究会 (名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター視覚支援課、名古屋盲人情報文化センター、光和寮、瀬古第二マザー園) への

活動（勉強会・見学会）参加と実施。

④ 同行援護従業者養成研修の実施

2回開催。9月に光和寮拠点、2月に明和寮拠点で開催し、受講者45名が修了した。（内法人職員は5名、法人内事業所登録9名）。

⑤ 歩行訓練士の養成

社会福祉法人日本ライトハウスが実施する視覚障害生活訓練等指導者養成課程（基礎Ⅰ）を職員1名が受講し、大阪の地にて6か月間履修した。下半期は名古屋に戻り、引き続き名古屋市総合リハビリテーションセンター視覚支援課での現場実習を積んだ。平成30年度より歩行訓練サービスを実施する。

（2）『愛盲報恩会』

助成事業として、27団体・部会・事業等に総額1,610,000円の助成を行った。

また、第12回を数える近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞の受賞者を選定し、11月25日に受賞者および推薦者を迎え、名古屋盲人情報文化センターにて贈呈式を行った。

（3）地域交流行事

4月22日 明和寮・港ワークキャンパスほか ライトハウスまつり

5月28日 名古屋盲人情報文化センター 用具展

9月9日 緑風（東部療育センターとの共催） 緑ぽけまつり

9月24日 戸田川グリーンヴィレッジ 秋祭り

10月7日 明和寮 地域交流フェスタ

11月5日 瀬古マザー園 ふれあい祭り

11月11日 光和寮 地域交流フェスティバル

4 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

当年度の相談実績は、例年に比べ訪問相談が減少し外来相談が増加している。これは年度当初の相談員体制の変更と、精神的な不安に対する電話相談の増加によるところが大きい。

特筆すべき処遇困難ケース対応としては、触法障害者の地域生活支援の体制づくりや再犯防止の相談が数多くあったことがあげられる。

また、当年度は西ブロック協議会で四区合同の事業所交流会「Go ふくし！ in the west！！」を名古屋学院大学にて開催し、利用者や家族に向けて適切な情報提供を行うことができた。

自立支援連絡協議会の活動としては、援助を得やすくするための「ヘルプカード」の使い方や、災害時の対応方法について行政と情報共有化を図る活動を実施した。次年度は名古屋市の連絡協議会でも「防災部会」が立ち上がり、災害に向けて地域でできることを検討する予定である。

ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
H27年度	847 (12)	2,333 (3)	40	3,220 (15)
H28年度	806 (11)	2,820 (1)	32	3,658 (12)
H29年度	547 (11)	3,462 (1)	34	4,043 (12)

※ () 内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲 (ピアフラワー講座含む)

※外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は10分以上の相談をカウント。

II 光和寮 拠点

障害者支援施設

『光和寮』

就労継続支援事業 B 型

就労移行支援事業

名古屋東ジョブトレーニングセンター

生活介護事業

施設入所支援

福祉ホーム

『かわな』『やすだ』

同行援護・移動支援事業

『ガイドネットあいさぽーと』

地域活動支援事業

『デイサービスセンター クリエイト川名』

相談支援事業

『光和障害者相談センター』

『りょくふう障害者相談センター』

1 障害者支援施設 『光和寮』

(1) 就労継続支援事業 B 型

治療部では、顧客の減少傾向が続いているため、広報の一環として従来の地下鉄駅広告に加え、川原・広路・松栄の各学区の回覧板、地図、運動会への広告掲載により、新規顧客は前年とほぼ同数を確保することができたが、治療師が1名引退したため、売上は前年度を下回る結果となった。

印刷科では、部数の多い冊子等の需要が減ったため、ほとんど稼動していなかったオフセット機2台と関連機器を撤去し、オンデマンド印刷に特化したことにより、多目的に使用できる作業スペースを確保できた。また無理な内製を控えることで、作業ミスや紙ロスを減らし利益率を上げることができた。

部品加工科では、主要取引先からの発注数が減少したため、その減少分を他の取引先でカバーしきれず売上減となった。しかしながら、今後売上が期待できる取引先との関係性を深めることができたので次年度に期待している。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 27 年度	50	29	79	平成 27 年度 平均		37,056
平成 28 年度	47	28	75	平成 28 年度 平均		36,154
平成 29 年度	51	24	75	平成 29 年度 平均		35,859
治療部	4	5	9	201,640	29,320	94,437
印刷科	6	4	10	118,296	12,600	46,421
部品加工科	41	15	56	87,485	12,600	22,906

※在籍者は期末現在数。工賃は 28 年度までは年間在籍者のみだったが、29 年度は就労継続支援事業 B 型の基本報酬算定に用いる工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

治療部	年間の来院数 3,902 人 年間の新規来院数 152 名 1 顧客あたりの平均単価 3,481 円
印刷科	冊子製本 年間 102 件 封筒印刷 年間 182 件 名刺印刷 年間 968 件 録音速記 年間 190 時間
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け作業 1,551,000 個 ギフトセット組み作業 128,000 セット アメニティグッズセットアップ作業 50,000 個 キッチン取手インサート作業 64,000 個 壁掛 TV 金具検品作業 2,600 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	4	4	78	80
平成 28 年度	7	10	75	
平成 29 年度	9	9	75	
(29 年度退所者) : 法人内他施設 1 名、他施設 3 名、自宅 5 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	34	28	1	18	3	0	78(6)
H28 年度	32	26	0	20	4	0	75(7)
H29 年度	32	29	1	18	2	0	75(7)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	21	3	18	25	10	1	0	78
H28年度	19	2	14	25	15	0	0	75
H29年度	18	1	11	29	16	0	0	75

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	1	8	15	14	20	20	78	47.5歳
H28年度	1	8	16	16	15	19	75	45.0歳
H29年度	0	8	14	15	15	23	75	48.9歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
80	H27年度	255	18,421	72.2	90.3%
	H28年度	254	17,893	70.4	88.1%
	H29年度	253	17,011	67.2	84.0%

(2) 就労移行支援事業 「名古屋東ジョブトレーニングセンター」

当年度も多くの特別支援学校等の学生に見学や実習などを通して当センターに来ていただいた。

担当職員の丁寧な対応が実を結んだ結果、年間平均100%を超える利用率を達成できた。また、企業への就職後のストレスケアを定期的を実施して、就職者のSOSをいち早く察知できるよう対応した結果、職場定着率もアップしている。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
平成27年度	11	8	17	3	18
平成28年度	16	17	16	1	
平成29年度	23	19	20	3	

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H27年度	4	0	3	1	8
H28年度	12	1	2	2	17
H29年度	14	2	1	2	19

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	0	1	0	17	2	0	17(3)
H28年度	0	0	1	14	4	0	16(3)
H29年度	1	2	0	15	2	0	20(0)

()内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	10	0	1	4	2	0	0	17
H28年度	13	0	0	2	1	0	0	16
H29年度	16	0	1	2	1	0	0	20

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	9	6	2	0	0	0	17	20.4歳
H28年度	6	9	0	1	0	0	16	21.8歳
H29年度	6	10	2	2	0	0	20	24.4歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18	H27年度	255	4,683	18.4	102.0%
	H28年度	254	3,853	15.2	84.3%
	H29年度	256	4,713	18.4	102.3%

(3) 生活介護事業

利用者の意見を取り入れながら新しい外出先を決めることで、参加の楽しみが増えるよう工夫した。また軽作業についても障害特性に合わせた作業が確保でき、利用者のやりがいにつながっている。

当年度は送迎要員の確保に苦労したが、対応できる職員を増やし臨機応変に動くことができた。また、個別支援計画の様式を使いやすいものにするなど、職員が創意工夫して考える習慣ができた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 27 年度	3	4	23	20
平成 28 年度	3	2	24	
平成 29 年度	1	2	23	
(29 年度退所者) : 他施設入所 2 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	6	10	5	8	0	0	23(6)
H28 年度	8	9	4	9	0	0	24(6)
H29 年度	7	8	4	10	0	0	23(6)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	1	0	1	7	4	3	7	23
H28 年度	0	0	0	7	6	5	6	24
H29 年度	0	0	0	7	7	4	5	23

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H27 年度	0	7	1	2	7	6	23	45.7 歳
H28 年度	0	7	1	3	6	7	24	48.2 歳
H29 年度	0	8	0	3	5	7	23	41.3 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
20	H27 年度	232	3,734	16.1	80.5%
	H28 年度	236	3,613	15.3	76.5%
	H29 年度	233	3,669	15.7	78.7%

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	388 名
音楽講師	53 名
マッサージ	12 名

(4) 施設入所支援

①生活支援

新規利用者は3名、退所者は1名。多様な利用者の受入れを検討した結果、2名の方が日中活動として緑風の就労継続支援B型を利用している。

レクリエーションでは参加者の偏りが見られたため、個別の要望に応え、釣り堀・映画・食べ放題など、個別レクを実施した。また、入所生活がより楽しくなるよう月見会では出張回転寿司を開催し、大好評であった。健康面の支援としてエアロバイクを1台設置。栄養マネジメントの会議では就労担当職員も参加して、より総合的な支援を目指した。また劣化したカーテンの交換、浴室給湯器の交換など、設備の更新を図った。

②給食

楽しい食事の演出として、季節を感じる旬の食材を使った「行事食」、ちょっと贅沢な「特別メニュー」、誕生日の方への祝福と話題性を提供する「誕生日リクエストメニュー」を実施。また、食事アンケートを踏まえて栄養バランスを重視したメニューを考え、豊かで楽しい食事ができるよう工夫した。また食事や調理への興味や自炊の可能性を念頭に置いて、定期的に調理教室を実施した。

③防災と安全確保

防災に関しては例年通り年間8回の避難訓練を実施。今後起こりうる震災への危機意識を高めるために取組んだ。

④地域生活への移行

地域移行を果たした利用者はいなかったが、福祉ホームの体験など地域移行を目標とした支援や相談、対応を常に意識し実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	0	2	21	32
平成28年度	3	2	22	
平成29年度	3	1	24	
(29年度退所者)：自宅1名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	10	7	1	6	0	0	21(3)
H28年度	11	7	0	8	1	0	22(5)
H29年度	12	10	0	6	0	0	24(4)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	0	0	6	12	2	1	0	21
H28年度	0	0	3	11	8	0	0	22
H29年度	0	0	4	12	8	0	0	24

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	0	2	6	6	7	21	52.1歳
H28年度	1	0	3	6	6	6	22	50.5歳
H29年度	0	1	3	6	6	8	24	57.1歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
外出ボラ	50名
地域交流フェスティバル	31名
メイクサロン	3名
メガネ メンテナンス	1名
新年を祝う会(鍋)	4名
調理実習	7名

2 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) 『かわな』

新規利用者は2名、退所者は4名。体験の問い合わせは何件かあるものの契約には至ってはいない。公営住宅への申し込みを続けているが、入居者が希望される地域は競争率が高く、厳しい状況が続いている。

退所後の部屋は、利用者の利便性を考えて畳部屋からフローリング部屋へ改装している。また、建物老朽化対策として屋上の防水工事と外壁塗装工事の第二期工事を実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	3	0	14	15
平成28年度	0	0	14	
平成29年度	2	4	12	
(29年度退所者)：法人内他施設1名、他施設1名、入院1名、地域生活1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	6	8	1	0	0	0	14(1)
H28年度	6	8	1	0	0	0	14(1)
H29年度	5	7	0	1	0	0	12(1)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	8	0	4	2	0	0	0	14
H28年度	7	0	5	2	0	0	0	14
H29年度	5	0	3	4	0	0	0	12

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	0	0	2	5	7	14	59.9歳
H28年度	0	0	0	2	5	7	14	57.2歳
H29年度	0	0	0	1	4	7	12	58.2歳

(2) 『やすだ』

当年度の新規利用は2名、退所は1名。現在、ヘルパーを利用する方は6名。内3名は入浴介助を利用している。

設備面では、経年劣化した備品（カーテン）を交換。また、施設入所支援と共用の個室浴場の給湯器を交換した。また、既存のベンチを緊急時には担架として使用できるレスキューベンチに交換した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	0	0	10	11
平成28年度	2	4	8	
平成29年度	2	1	9	
(29年度退所者)：地域生活1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	3	7	0	0	0	0	10
H28年度	2	6	0	0	0	0	8
H29年度	2	7	0	0	0	0	9

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	1	0	3	4	2	0	0	10
H28年度	2	0	1	2	3	0	0	8
H29年度	4	0	0	3	2	0	0	9

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	0	4	1	2	3	10	47.3歳
H28年度	0	1	3	1	2	1	8	42.3歳
H29年度	0	1	3	1	2	2	9	46.4歳

3 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

同行援護事業は既存利用者の利用日が増え、活動時間が延べ400時間を超える月もあり、年間平均も目標としている月370時間を超える結果となった。

当年度は新規登録ヘルパーを10名確保できた。今後はヘルパー研修会を通して、ヘルパーの質を高め、さまざまな利用者に対応できる体制を整える。

また、引き続き活動数の少ない曜日・時間帯を中心に利用者の確保に努める。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	46	0	0	4	0	0	47(3)
H28年度	47	0	0	5	0	0	48(4)
H29年度	48	0	0	4	0	0	49(3)

() 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	4	1	10	27	4	1	0	47
H28年度	4	1	8	28	6	1	0	48
H29年度	4	1	10	29	4	1	0	49

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	2	3	1	6	1	34	47	65.5歳
H28年度	2	1	2	6	1	36	48	65.9歳
H29年度	2	1	1	5	4	36	49	65.3歳

エ 活動実績時間数

	平成 27 年度	平成 28 年度	H29 年度
移動支援（月平均）	5.9 時間	0.3 時間	0 時間
同行援護（月平均）	360.6 時間	338.5 時間	374.4 時間

※移動支援は名古屋市が視覚障害者を対象から外したことにより激減

4 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

視覚障害者に特化したデイサービスとして活動内容を工夫してきた。新規利用の相談に加え、既存の利用者も利用日を増やしたいとの要望があるため、登録曜日を越えて利用できるよう工夫をしているが、日々の利用人数が定員（19名）を超えられないため、なかなか利用人数を増やすことができない。さらに体調不良などにより欠席する利用者も多く、年間の利用稼働率は大きく伸びなかった。

当年度は、事前準備や予算を抑えながらも利用者に興味を持って参加していただける企画として、模擬店形式でお祭りの雰囲気意識した事業所内イベントを実施。外出と比べて移動時間の短縮と活動時間増が果たせ、職員負担を減らしながらも利用者に満足していただける内容となった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	3	4	53	19
平成 28 年度	4	4	52	
平成 29 年度	6	5	53	

(29年度退所者)：利用取り止め4名、死去1名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	52	0	0	1	1	0	53(1)
H28 年度	51	0	0	1	1	0	52(1)
H29 年度	52	0	0	1	1	0	53(1)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27 年度	0	1	3	4	7	38	53	64.9 歳
H28 年度	0	1	3	3	8	37	52	66.2 歳
H29 年度	0	1	3	2	7	40	53	66.2 歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H27年度	240	3,700	15.7	82.8%
	H28年度	244	3,769	15.4	81.2%
	H29年度	245	3,729	15.2	80.1%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	168名
陶芸	224名
音楽講師	11名
体操講師	36名

5 相談支援事業

『光和障害者相談センター』・『りよくふう障害者相談センター』

(1) 光和障害者相談センター

当年度も新規の相談が、役所、個人、事業所などさまざまな場所から寄せられた。新規の契約が増えて相談員一人当たりの件数も増えたため、相談の質の向上を目的に、8月に相談員を1名増員し、りよくふう相談センターの移管も併せて相談員の人員調整と担当件数の調整を行った。

3月末時点において、相談支援専門員4名、利用契約者数は438名である。地域移行支援では、精神科病院の入院者1名、施設入所者2名を支援。自立支援連絡協議会では、昭和区相談部会の世話人を務め、近隣区の協議会へも積極的に参加して情報収集と連携に努めた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H27年度	474	743	514	11
H28年度	595	872	563	10
H29年度	540	778	430	8

(2) りよくふう障害者相談センター

緑風拠点で運営していた相談支援事業であったが、11月に光和障害者相談センターとの再編を行い、光和寮拠点での運営となった。相談センターとしての機能強化を

目的に、光和障害者相談センターから相談員 2 名が異動して 3 名体制となり、事業所も千種区内に移転。これらの取り組みにより、10 月末時点で 104 名であった利用者数も、3 月末には 273 名となり、相談センターとしての機能が充足しつつある。今後も光和障害者相談センターと協調しながら、地域の求めに応じられる相談センターを確立する。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H27 年度	86	179	85	1
H28 年度	101	188	97	4
H29 年度	192	248	265	8

III 明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	『明和寮』
就労継続支援事業 B 型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
放課後等デイサービス	『わくわくステップ』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』

働く暮らすつながる場として「地域の有益な福祉資源」を目指す 3 か年計画最終年。利用者主体を掲げ、サービス管理責任者体制の充実により個別支援の質の向上とチームアプローチの仕組みづくりに努めた。人権委員会では人権アンケートを実施し集約後、施設長より各部署会議等で報告、意見交換をした。その結果から「挨拶の推進」「呼称について考える」「互いを理解し合う座談会」などの取り組みを始めた。

また、拠点全体のパンフレットを制作し広報活動を実施した結果、就労継続支援 B 型では 16 名の新規利用者があり、就労移行支援では 10 名の来期利用希望者があり、例年を大幅に上回った。また、職員及び利用者を対象とした障害理解の研修会を内外講師により 5 テーマで全 7 回延べ 204 名に対して実施した。

地域防災体制を構築すべく、地域役員を招いて防災訓練を実施し、また会議を開催して備えを強化した。労働衛生委員会も毎月開催したが、安全確認不足によるケガや

交通事故等が減らず、一人ひとりの意識改革や更なる安全対策を進めるという課題が残った。

1 障害福祉サービス事業 『明和寮』（多機能型）

（1）就労継続支援事業B型 「ビーサポート」

収益改善と支援体制再構築を目指した。印刷科の営業体制の見直しや新規設備の導入、包装加工科における既存取引先への値上げ交渉および新規取引先獲得など、高収益事業のさらなる強化に注力した。一方、下請け作業では売上減少の著しかった取引先との契約解除を断行し下半期には一定の成果を得ることができた。支援体制はサービス管理責任者を中心に個別支援計画重視を徹底、再構築した。

数年来の課題である利用者の個別状況多様化へのひとつの在り方として「ビーサポートは通過する場所」という新たなモデルを示すことにより、ステップアップし一般就労した方、介護保険への移行をされた方など、今後の支援方法への手ごたえを感じている。また、事業連携による広報活動強化による新規利用者増も今後へつながる大きな変化であった。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃（年間総支給額÷12）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 27 年度	79	23	102	平成 27 年度 平均		53,580
平成 28 年度	77	26	103	平成 28 年度 平均		55,424
平成 29 年度	79	29	108	平成 29 年度 平均		47,689
印刷事業	7	4	11	125,623	19,924	53,718
組立事業	27	9	36	91,411	9,486	32,575
自動車部品事業	35	13	48	83,979	11,933	39,614
包装加工事業	10	3	13	118,120	9,132	53,287

※在籍者は期末現在数。工賃は 28 年度までは年間在籍者のみだったが、29 年度は就労継続支援事業B型の基本報酬算定に用いる工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

印刷科	冊子、チラシ、封筒、名刺など編集・印刷作業 総件数 1417 件 総部数 8,989,028 部 封筒 124 件 640,959 枚 冊子・ペラ物 1,210 件 8,345,630 枚 Paper chips のカッティング 合計 38,070 セット お菓子梱包 合計 27,329 セット 自販機設置協力事業所 32 社 設置台数 46 台 ブログ更新 15 回
-----	---

組立加工科	キッチン取手インサートナット加工及び組付け 443,001 個 タング並べ 9,297,050 個
自動車部品科	ケースフィルター組付け 2,277,625 個 クーラントシール貼り、梱包作業 290,951 個 点火プラグマスキング作業 2,288,376 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 693,000 セット 紙缶箱作成作業 222,764 個
包装加工科	プラスチック真空成型加工のみ 真空成型加工及びスライドブリスター（折り曲げ）加工 スライドブリスター（折り曲げ）加工のみ 合計 3,941,416 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	3	7	102	100
平成 28 年度	9	8	103	
平成 29 年度	16	11	108	
(29 年度退所者)：一般就労 1 名、就労継続支援 A 型 1 名、就労継続支援 B 型 1 名、障害者支援施設 1 名、高齢者向住宅 2 名、特別養護老人ホーム 1 名、自宅 3 名、死去 1 名				

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	17	54	0	35	13	0	102(17)
H28 年度	18	52	0	35	13	0	103(15)
H29 年度	22	51	2	34	17	0	108(18)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	33	3	22	28	10	5	1	102
H28 年度	35	2	19	29	12	5	1	103
H29 年度	37	1	18	34	13	4	1	108

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H27 年度	1	13	8	23	28	29	102	49.7 歳
H28 年度	4	13	5	23	28	30	103	49.3 歳
H29 年度	4	12	10	24	31	27	108	49.1 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
100	H27年度	256	22,590	88.2	88.2%
	H28年度	254	22,410	88.2	88.2%
	H29年度	255	22,322	87.5	87.5%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	90	ライトハウス福祉まつり、納涼祭 ボランティア協力の食事会
頭髪カット	3	
クラブ活動支援	80	詩吟、卓球、将棋、陶芸、手芸、フラワー

(2) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

当年度は新体制始動と報酬改定及び新事業創設の情報収集を2本柱とした。各職員の職域を広げることを企図し、定員を14名に減員。新規利用者受け入れ体制の再構築と関係機関との連携に注力した。また、拠点内就労部門の連携機能を高め、就労継続支援B型で一般就労を希望する利用者への協働支援も行った。ただ、就労継続支援B型との訓練プログラム連携による新しい拠点機能としての就労移行支援を創造するまでには至らず今後の課題となった。サービス管理責任者を中心とした支援を再構築したことで、訓練生の能力開発にも着目したきめ細やかなサービス提供が可能な体制となりつつある。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定 員
平成27年度	17	19	18	20	18
平成28年度	11	20	9	2	
平成29年度	9	8	10	11	14

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H27年度	13	2	0	4	19
H28年度	7	3	2	8	20
H29年度	4	0	1	3	8

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	0	3	1	9	7	0	18 (2)
H28年度	0	1	0	7	1	0	9 (0)
H29年度	0	1	1	7	2	0	10 (1)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	17	0	0	0	1	0	0	18
H28年度	9	0	0	0	0	0	0	9
H29年度	9	0	1	0	0	0	0	10

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	6	8	3	1	0	0	18	24.2歳
H28年度	5	2	2	0	0	0	9	22.1歳
H29年度	5	2	1	2	0	0	10	26.0歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18	H27年度	255	2,999	11.8	65.3%
	H28年度	253	2,828	11.2	62.2%
14	H29年度	253	2,154	8.51	60.8%

(3) 生活介護事業 「ぷちとまと」

当年度は新規職員が3名入職し、利用者支援をはじめ各種業務の引継ぎをスムーズに行い、サービスの質の低下を防ぐことに留意するとともに、業務改善・業務の効率化を図り、職員の休憩時間の確保や時間外労働の減少に努めた。入退所状況については4名退所・4名入所となり在籍者数の変化はなかったが、利用率は前年度対比△3.9ポイントとなった。室内環境の整備については、車椅子の置き場所を変更するなど改善に取り組んだが、次年度の利用者増と併せて作業ニーズのある利用者への支援も視野に入れると、活動スペースについて抜本的な見直しが必要である。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 27 年度	2	2	29	12
平成 28 年度	1	2	28	
平成 29 年度	4	4	28	
(29 年度退所者) : 死亡 2 名、介護保険移行 1 名、自宅 1 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	4	22	0	14	1	0	29(12)
H28 年度	4	22	0	14	0	0	28(12)
H29 年度	4	21	0	14	1	0	28(12)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	0	0	0	3	4	5	17	29
H28 年度	0	0	0	3	3	6	16	28
H29 年度	0	0	0	4	3	5	16	28

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H27 年度	1	9	6	6	2	5	29	40.6 歳
H28 年度	0	8	8	6	2	4	28	35.0 歳
H29 年度	0	5	11	5	5	2	28	40.3 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
12 ※1	H27 年度	240	2,692	11.2	106.8%※2
	H28 年度	242	2,691	11.1	92.5%
	H29 年度	242	2,572	10.6	88.6%

※1 平成 28 年 1 月より定員変更 (10 名→12 名)

※2 年度平均は定員の平均値にて算出 ((10 名×9 ヶ月+12 名×3 ヶ月) / 12 ヶ月=10.5)

2 福祉ホーム 『あかり』『黎明荘』

当年度は利用者の障害の重度化に伴い、あかりから特別養護老人ホームに移行された方が 1 名、黎明荘から障害者支援施設に移行された方が 1 名、あかりの新規利用者

は5名だった。また、建物の老朽化も大きな課題であったため、共用部分（廊下の壁、床、天井、トイレ、洗面所、居室の扉等）を中心に大規模改修を行い、また、あかり3室、黎明荘1室のリフォームも行い、美観が大きく改善した。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	0	3	33	40
平成28年度	3	3	33	
平成29年度	5	1	37	
(29年度退所者)：特別養護老人ホーム1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	8	25	0	7	2	0	33 (9)
H28年度	9	24	0	6	2	0	33 (8)
H29年度	11	26	1	6	2	0	37 (9)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	5	2	9	9	4	3	1	33
H28年度	5	1	7	11	6	2	1	33
H29年度	7	0	7	14	6	2	1	37

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	0	1	5	13	14	33	57.0歳
H28年度	0	1	0	6	13	13	33	56.8歳
H29年度	2	1	1	6	15	12	37	53.9歳

(2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	0	0	5	10
平成28年度	0	0	5	
平成29年度	0	1	4	
(29年度退所者)：障害者支援施設（戸田川グリーンヴィレッジ）1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	1	4	0	0	0	0	5
H28年度	1	4	0	0	0	0	5
H29年度	1	3	0	0	0	0	4

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	0	0	1	1	2	1	0	5
H28年度	0	0	1	2	1	1	0	5
H29年度	0	0	0	3	1	0	0	4

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	0	0	1	4	0	5	52.6歳
H28年度	0	0	0	1	4	0	5	53.6歳
H29年度	0	0	0	1	3	0	4	53.0歳

3 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

同行援護事業は、この数年活動実績時間数が減少している。要因としては、天候不良・利用者の体調不良や入院等によるキャンセルの増加、高齢化による長時間外出の減少があり、また派遣調整ができず依頼に対応できない案件があったことも挙げられる。

請求業務に関しては、事務員への引き継ぎが終了し、管理者・サービス提供責任者が常駐し、利用者への電話応対、臨時依頼にも対応できる体制を整えつつある。

事務作業の効率化に向けて定期的に会議を行い情報共有を図り、事務作業の分担を行うことにより、職員やヘルパーの研修等の計画的な開催を目指す。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	33	26	0	6	0	1	66
H28年度	33	27	0	7	0	0	67
H29年度	32	26	0	8	0	0	66

イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	6	1	13	22	9	4	11	66
H28年度	4	1	9	25	12	7	9	67
H29年度	5	0	10	26	10	6	9	66

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	3	2	2	10	17	32	66	56.5歳
H28年度	4	3	3	10	20	27	67	54.0歳
H29年度	4	4	3	10	21	24	66	54.2歳

エ 活動実績時間数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
重度訪問介護（月平均）	339.7時間	339.0時間	289.5時間
移動支援（月平均）	43.7時間	50.3時間	54.8時間
居宅介護（月平均）	95.5時間	85.6時間	85.9時間
同行援護（月平均）	521.0時間	470.7時間	437.8時間

4 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえつとほ一む』

職員体制を変更し、利用者像の多様化・高齢化や既存利用者のマンネリ感を解消するため、活動プログラムの充実化やボランティア強化の取組みを実施した。その結果として新たな活動の推進から利用率は前年度対比で4.1ポイント向上し、収益増へつなげることができたが、収支赤字は解消に至らず課題を残す1年となった。しかしながら、職域にとらわれず職員一人ひとりが考え、実行するチームになるための布石を打つことができたのは収穫であった。

今後も更に利用者主体の支援を推し進めることで収益増につなげ、人件費をはじめとした経費削減を実行することで安定した事業運営を目指す。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	4	17	104	19
平成28年度	6	4	106	
平成29年度	8	3	111	
(29年度退所者)：一般就労1名、就労継続支援A型移行1名、市外移住1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	15	63	2	18	6	0	104
H28年度	16	65	2	22	8	1	106(8)
H29年度	17	64	2	24	11	1	111(8)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	4	15	15	17	53	104	56.7歳
H28年度	1	4	15	16	18	52	106	56.1歳
H29年度	0	7	16	16	20	52	111	54.9歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H27年度	262	3,857	14.7	77.3%
	H28年度	262	3,659	14.0	73.5%
	H29年度	262	3,862	14.7	77.6%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
講師	105名	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳、ヨガ
パソコン	629名	
活 動	210名	
イベント支援	40名	福祉祭り、交流フェスタ、外出訓練

5 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

当年度は新規利用者が数名入り順調な滑り出しであったが、途中退所者もあり、最終的に卒業生も含め契約人数の減少につながった。しかし、現利用者・保護者からは、楽しく利用できているという声もあり信頼へとつながっている。

次年度の報酬改定で厳しい1年を余儀なくされる点はあるが、現在の利用者の活動は順調に進んでいるので更なる活動内容を検討する。

また、ボランティアも定着しており、次年度も引き続き依頼をかける。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	7	8	40	10
平成 28 年度	3	1	42	
平成 29 年度	8	14	36	

(29年度退所者)：一般就労1名、生活介護7名、放課後等デイサービス6名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H27年度	0	16	38	1	0	40(15)
H28年度	0	15	41	1	0	42(15)
H29年度	0	10	35	1	0	36(10)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計 36 名

港養護	南養護	西養護	港南中	東港中	港北中	港楽小
9	7	2	3	2	1	3
小碓小	稲永小	正保小	東築地小	東海小	篠原小	保育園
1	2	1	1	1	1	2

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10	H27年度	248	2,688	10.8	108.3%
	H28年度	251	2,604	10.4	103.7%
	H29年度	253	2,719	10.7	107.4%

オ ボランティア・講師活動状況

火曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	1名
金曜日	(講師として) キッドビクス(月2回)	1名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月2回)	2名
年間で	ツアー・各月の行事参加	4~7名

6 放課後等デイサービス 『わくわくステップ』

開所して2年半が経ち、当初からの事業目的のひとつとしている卒後の就労を意識した活動は定着してきており意欲的に活動に取り組む利用者が増えてきている。

上半期は新規利用者が増えず厳しさがあつたが、下半期から徐々に新規利用が増えてきており次年度につながる形になっている。次年度も他部署の職員と連携をして事業所PRに力を入れると共に、利用者・家族から喜ばれる活動内容の更なる検討を進める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 27 年度	14	0	14	10
平成 28 年度	4	2	16	
平成 29 年度	5	4	17	
(29 年度退所者) : 一般就労 1 名、生活介護事業 3 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	0	4	13	0	0	14(3)
H28 年度	0	5	15	0	0	16(4)
H29 年度	0	4	15	1	0	17(3)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用者の学校別の人数 : 合計 17 名

港養護	南養護	西養護	港南中	東港中	港北中	明豊中	
3	5	2	2	3	1	1	

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	H27 年度	129	598	4.6	46.3%
	H28 年度	260	1,407	5.4	54.1%
	H29 年度	260	1,745	6.7	67.1%

オ ボランティア・講師活動状況

月曜日~金曜日	(講師として) 音楽療法(月 2 回)	1 名
土曜日	(ボランティア) 料理教室	4 名

7 相談支援事業 『明和障害者相談センター』

相談員 4 名 (兼務 1 名) 体制で、障害者・障害児の方 (契約件数 320 名) の生活面、就労面の様々な相談を受けている。家族支援や障害福祉サービス以外の基本相談にも柔軟な対応ができるよう、各相談員の担当件数を検討してきたが、相談員の異動による件数調整もあり、引き続き検討が必要である。

次年度より港ワーク障害者相談センターを統合し、相談員を 1 名吸収することとなり、また、新たな相談員の採用により新しい人員体制となるため、情報の共有化、制度改正に対応できる体制整備に努める。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H27年度	333	527	303	38
H28年度	310	500	274	34
H29年度	310	457	272	48

IV 港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター、かんせい工房
福祉ホーム	『みなと』
相談支援事業	『港ワーク障害者相談センター』

1 障害福祉サービス事業 『港ワークキャンパス』（多機能型）

（1）就労継続支援事業A型 「ライトハウス名古屋金属工場」

当年度の日本経済は緩やかな回復傾向ではあったが、建築業界では人手不足や悪天候の影響（大雨・大雪）で工事が遅れたことも影響し、関連する大口取引先への出荷が鈍った。今後は堅調な海外景気や非製造業の需要が高まってきている等で景気回復が続くと予想される。また、平成30年度はオリンピック需要が本格化すると見込まれることから、秋以降からは建築業の伸びが続くとみている。

金属工場内においては、「生産の効率化と利用者支援」、「設備整備と営業戦略」に取り組み、資材の仕入量から在庫の持ち方の見直しを進め、安定した受注対応を実施した。結果、計画的な生産工程を図り生産効率化につながった。また、前年度までは職員で行っていた段取り作業等も利用者ができるようになり時間削減につながる等、利用者のスキルアップにも成果を上げることができた。

設備機器に関しては見直しも進め、老朽化した機械のオーバーホールや、ライン停止の原因になる部分の改良等を行い、トラブルの削減につなげることができたが、全体的には依然必要な機械の修繕などがあり、優先順位を決めながら継続的に取り組んでいく課題が残っている。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 27 年度	63	3	66	168,178	45,636	113,017
平成 28 年度	61	3	64	264,155	66,038	118,602
平成 29 年度	59	3	62	262,982	89,354	125,544

※在籍者は期末現在数。工賃は 28 年度までは年間在籍者のみだったが、29 年度は就労継続支援事業 B 型の基本報酬算定に用いる工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

金属加工事業	ブリキ缶製造 : 1,599,000 缶出荷
--------	------------------------

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	3	5	66	60
平成 28 年度	1	3	64	
平成 29 年度	1	3	62	
(29 年度退所者) : 自宅 2 名、定年 1 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	8	23	3	29	6	0	66(3)
H28 年度	8	21	3	29	6	0	64(3)
H29 年度	8	20	4	27	6	0	62(3)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	54	3	7	2	0	0	0	66
H28 年度	50	3	7	1	1	0	0	64
H29 年度	49	2	6	4	1	0	0	62

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H27 年度	3	13	11	14	20	5	66	41.8 歳
H28 年度	0	18	7	17	17	5	64	42.3 歳
H29 年度	0	16	8	16	17	5	62	43.7 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
60	H27年度	255	15,681	61.5	102.5%
	H28年度	255	15,203	59.8	99.7%
	H29年度	254	14,801	58.3	97.1%

(2) 就労継続支援事業B型「KAN食品開発センター」「かんせい工房」

①「KAN食品開発センター」

パンの缶詰『パンですよ!』は年度当初より大手企業の備蓄が活発に動き出し、また大量案件の問合せも多く未知数的な要素を含んでスタートした。前年度の好調の反動からか前半はやや低調に推移したが、取引先からの要望・競合他社の動向・入札要綱の変化等に対応するため、これまで準備してきた賞味期限の6ヶ月延長を9月より開始したことがその後の入札案件拡大につながり、受注の拡大により結果的に前半の低調分をカバーする程になった。また、試作品検査を継続している紙製容器に関しては、入札要綱に入る案件がまだまだ少なく、現状の市場動向は不透明の状態であることから、ひとまず最速検査(3年)を実施しながら市場を静観することで落ち着いている。

パンの缶詰の生産力拡大と利用者定員増のため、既存の工場の取り壊しを伴う第二パン工場の建築に向けた取り組みを加速させた。途中、設計管理業者を変更せざるを得なくなり、3階建ての計画を幅広い活用のため4階建てとするなど、計画段階での変更を重ねたが、どうにか年度内の建築着工にこぎ着けることができた。7月には竣工となる予定で、新しい施設開所に向けて職員育成や利用者増などソフト面での準備を進めているところである。

地産地消(国産小麦・米粉など)製品はJA豊田(豊田市)に続きJA岐阜(岐阜市)でも取り組みがスタートし、当初東海3県での展開を模索していたが、一般企業を巻き込んだ全国規模展開を並行して行い、各JAと連携することを優先的に考えて次年度は進める。

②「かんせい工房」

今年度は利用者3名増により合計16名で運営してきた。建設中の第二パン工場への事業集約化も視野に採算性、効率化等、現状の下請け作業の見直しを進めており、同時に利用者増に向けた新規作業確保も実施してきた。また、第二パン工場への事業移転が実現すれば、新商品(あずきミルク味)に関する製造作業の役割も担う可能性もあるため、柔軟な変化に対応することが求められると予測している。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成27年度	19	19	38	82,170	5,851	42,187
平成28年度	20	23	43	84,075	10,134	42,707
平成29年度	23	22	45	85,350	11,941	44,990
KAN食品開発	18	13	31	85,350	23,796	51,812
かんせい工房	7	10	17	57,175	23,061	38,321

※在籍者は期末現在数。工賃は28年度までは年間在籍者のみだったが、29年度は就労継続支援事業B型の基本報酬算定に用いる工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

パンの缶詰 製造事業	販売缶数：833,400 缶(内製 762,900 缶、外注仕入 70,500 缶)
下請作業	菓子袋詰め作業 336,000 個(年末年始お土産用等) 風船袋詰め作業 : 335,600 個 レトルト加工(どて煮等) : 3,600 個 コンニャク加工 : 5,000 個 物品検品作業 : 33,000 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	8	4	38	40
平成28年度	10	5	43	
平成29年度	6	4	45	
(29年度退所者)：就労継続支援A型3名、自宅1名				

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	4	6	0	24	6	1	38(3)
H28年度	4	9	0	25	6	1	43(2)
H29年度	5	10	0	24	5	1	45

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	15	4	11	4	4	0	0	38
H28年度	22	1	7	4	8	1	0	43
H29年度	24	0	7	6	7	1	0	45

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	9	9	3	6	5	6	38	37.1歳
H28年度	0	21	3	5	4	10	43	38.6歳
H29年度	3	21	2	4	5	10	45	40.0歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H27年度	252	7,928	31.5	78.7%
	H28年度	254	8,623	33.9	84.7%
	H29年度	254	9,166	36.1	90.2%

(3) 相談支援事業 『港ワーク障害者相談センター』

事業開始から5年、利用者との関係も深まり、サービス利用計画に関するだけでなく、家族について、お金のことなど、生活の中の困りごと等様々な相談を受けることが増えた。また、利用者自身の高齢化が進み、介護保険へ移行される方も多かった。

2名の相談員がお互いのケースについて相談できるミーティングを行い、スキルアップやお互いのケースを知り支援の充実に努めた。また、関係事業所や関係機関とも連携をとりながらチームで支える支援ができるように担当者会議も開催することが増えてきた実感がある。

これまで、隣接した明和障害者相談センターとそれぞれの事業を行ってきたが、平成30年度4月より法人内の異動にて明和・港ワーク両相談支援事業の所属長が他拠点に異動となることを機に、これまで非効率的であった緊急時対応、情報共有、関係機関との連携等の改善を図るために事業所の統合を決定した。（港ワーク障害者相談センターは平成30年3月31日をもって廃止となった。）

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H27年度	122	324	164	0
H28年度	137	354	169	0
H29年度	160	305	177	0

(4) 福祉ホーム 『みなと』

ホーム入居者の体調不良や急な事態が起きても他の入居者が駆けつけられるよう、各部屋に緊急ブザー（手動式から進める）の設置を行い、安心して暮らしていけるよ

うに工夫した。また、入居者の声を多く拾うためにも福祉ホーム会議を3回行い、その中からの要望で夏場シャワー浴を試験的に2ヶ月間実施してより快適な暮らしを提供することができた。

今後の課題としては、さまざまな災害時の避難方法の見直し、更なる防犯対策の強化にも取り組み、安心感ある暮らしを提供できるように努める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	0	0	17	20
平成 28 年度	1	3	15	
平成 29 年度	3	2	16	
(29 年度退所者)：市営住宅 2 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27 年度	5	11	1	0	0	0	17
H28 年度	4	10	1	0	0	0	15
H29 年度	5	10	1	0	0	0	16

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	10	1	2	3	0	1	0	17
H28 年度	10	0	2	3	0	0	0	15
H29 年度	10	0	2	3	1	0	0	16

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H27 年度	0	3	0	3	6	5	17	50.0 歳
H28 年度	0	2	0	3	6	4	15	51.1 歳
H29 年度	1	1	1	3	6	4	16	50.1 歳

(5) 地域貢献活動（チームサンキュー活動報告）

・港区荒子川公園歩道周辺の清掃活動

公園名	日付	人数
荒子川 第1回	6月1日	職員3名・従業員4名
荒子川 第2回	6月29日	職員6名・従業員7名
荒子川 第3回	7月27日	職員4名・従業員4名
荒子川 第4回	8月31日	職員4名・従業員5名
荒子川 第5回	10月5日	職員4名・従業員4名
荒子川 第6回	11月2日	職員4名・従業員5名
荒子川 第7回	12月6日	職員3名・従業員3名
荒子川 第8回	1月31日	職員4名・従業員4名
荒子川 第9回	2月28日	職員4名・従業員3名

・イベント参加

- ① 4月22日 LH西部施設祭りに参加
- ② 7月22日 LH西部施設納涼祭に参加
- ③ 9月2日 職員研修会の新人紹介ステージに参加
- ④ 12月10日 「清須市わたっ子クラブ」主催クリスマス会に参加
- ⑤ 3月30日 「ゆたか福祉会ふれあい作業所」ご苦労さん会に参加

V 緑風 拠点

就労継続支援事業B型
相談支援事業

『緑風』
『りよくふう障害者相談センター』

当年度は土地活用問題を最優先事項として取り組み、新棟建設等の拠点整備について協議を進めると共に相談支援事業の移転（光和寮拠点への移管）等を行なった。事業が凝縮される中で職員体制も大きく変化することとなったが係長を中心とした新体制を構築したことにより一体感のある業務遂行を行なうことができた。

就労継続支援B型では11名の新規利用となったが、長期未利用者の登録解除等を行なったため、在籍者数は昨年度と変わらなかったが利用率は持ち直すことができた。特に、家族の高齢化により利用困難となった利用者が光和寮への入所と送迎により再利用できたことについては、利用者や家族の希望を叶えるために積極的な活動をした結果だと感じている。

地域に向けた活動については地道に関係性を構築するに留まったが次年度には学区の民生委員によるお花見会や老人会の食事会に会場提供を予定している。

1 就労継続支援事業B型 『緑風』

当年度は「あなたらしい働き方」を大切にしつつも、「収益の改善」と「利用者工賃の向上」を意識して取り組んできた。施設外就労（清掃作業）に従事する利用者に1回あたり200円の手当支給を開始したところ、従事者の作業に対する意識や清掃の質の向上につながり、結果として清掃箇所を拡大してもらえることになった。また、朝礼や作業中に作業量や納期について意図的に周知することが利用者の作業力アップにつながり、売上を大きく押し上げる結果となった。

その結果、緑風では初めてとなる「寸志」を年末に支給し、利用者工賃の向上にもつなげることができた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成27年度	38	8	46	31,066	1,007	7,897
平成28年度	38	7	45	32,151	1,035	7,949
平成29年度	36	9	45	30,352	4,479	8,676

※在籍者は期末現在数。工賃は28年度までは年間在籍者のみだったが、29年度は就労継続支援事業B型の基本報酬算定に用いる工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業科	下請け作業としての年間生産数 くまで組立 15,314本・ほうき組立 34,118個 （その他清掃用品6種類の組付、加工、袋入れ） DMチラシ2,752,650枚・洗濯物たたみ2,149,605枚など 施設外作業（清掃業務）年間 235日
------	---

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	8	4	46	40
平成28年度	4	5	45	
平成29年度	11	11	45	

(29年度退所者)：就労継続支援A型1名、就労継続支援B型2名、法人内他施設(B型)1名、介護保険施設1名、自宅6名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	1	15	1	27	10	0	46(8)
H28年度	1	14	1	25	10	0	45(6)
H29年度	2	13	1	26	12	0	45(9)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	18	2	5	13	7	1	0	46
H28年度	18	2	5	12	7	1	0	45
H29年度	17	3	5	11	9	0	0	45

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	5	5	13	11	8	4	46	39.6歳
H28年度	1	9	13	12	8	2	45	38.8歳
H29年度	1	12	7	11	11	3	45	40.5歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H27年度	258	8,926	34.6	86.5%
	H28年度	262	8,656	33.3	82.5%
	H29年度	258	8,926	34.6	86.5%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	468名
レク介助	38名

2 相談支援事業 『りよくふう障害者相談センター』

土地活用問題について進めていく中で、緑風の所在地では運営が困難となり、また対象者が増え続ける相談支援体制の更なる充実を図るためには、法人内での連携を強める必要があると判断し、11月よりエリアを同じくする光和寮拠点の管轄とすることとなり、場所を千種区内の別の住所地に移し、緑風・光和寮両拠点から人材を集め運営することとなった。（年間の実績数は光和寮拠点に掲載）

VI 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設
生活介護事業
施設入所支援

『戸田川グリーンヴィレッジ』

短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

中堅職員を中心に、より活躍できるよう従来の班長会議のあり方を見直し、職種間連携強化を図るため参加メンバーの見直しを行い各部署の主任・班長で構成する形に変更した。その結果、部署間の情報共有や共通課題の理解が深まり、スピード感を持って解決する体制ができ、横のつながりの強化につなげることができた。また、職員のメンタルヘルス支援として他部署や同期職員同士のつながりをつくり「支え合えるチーム作り」を目指し、月1回昼食を取りながら経験の浅い職員を中心に普段話す機会が少ない職員が集まり交流を深める取り組みを行った結果、他者理解が深まった。

サービス面では、2回目となる「福祉サービス第三者評価」を受審し、評価結果を受け課題が明らかになった。次年度は、課題解決に向けた改善活動を進める。また、人権委員会活動の一環として外部講師を招き研修会を開催し、人権意識を高める取り組みを行った。また、各部署や関係機関と連携し利用者1名の看取り支援を行った。

リスクマネジメント強化の取り組みとして、中川警察署や業者の協力を得て防犯講習会を2回開催し、職員の防犯に対する意識の向上につなげた。前年度のノロウイルス感染拡大の反省から感染防止対策を強化した結果、職員の感染防止の意識も高まり、当年度は感染症の蔓延はなかった。また、ノロウイルス感染発生時の対応等をまとめ全国身体障害者施設協議会研究大会で実践発表を行った。

設備面では、設備の不具合が徐々に増えているため、計画的に利用者全居室の空調設備のメンテナンスを行った。次年度は共用部分の空調設備のメンテナンスを行う。

施設周辺の地域ニーズを把握する目的と地域貢献活動としてランチ会を兼ねた救命講習会を実施した。地域の中での施設の認知度は低く、施設を知っていただく取り組みの必要性を再認識した。

平成30年度報酬改定に向け、関係部署を中心に情報を共有し改定の影響の分析や対応策を検討し、体制準備を行った。

1 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

(1) 生活介護・施設入所支援事業

利用者の重度・高齢化を見据えて、各部門との連携を強化し利用者の状況変化にいち早く対応できる体制を整えた。支援力向上委員の取り組みにより食事介助時の見守り強化等の業務改善、ショートステイ利用者の入退所時の身体状況の聞き取り・伝達の充実が図れた。利用者1名の看取りを施設内で行うこととなり、看取りについての支援方法などを各部門で共有し、支援することができた。

利用者の安全な移乗を目指し、リフトリーダー研修を受講した職員(2名)と安全委員会が連携し危険予測・事故防止に努めたが、介護リフトによる移乗で転落事故が

1 件、リフト以外での移乗介助で重大事故が 1 件発生した。検証・対策を行うことで以降は同様の事故は発生していないが、次年度も継続して事故防止に努める。

内部研修は、認知症の理解（32 名参加）、高次脳機能障害の理解（17 名参加）、ノロウイルス感染防止の予防（主に嘔吐物の処理、全職員対象）を各種委員会と連携しながら行うことにより、新人職員のみならず中堅職員のスキルアップ、支援力の向上を図った。

日中活動では相談員と連携し、新規のボランティアによる日中活動を 2 回実施した。継続した活動には至らなかったが新規ボランティア受け入れのノウハウを蓄積できた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 27 年度	3	4	39	40
平成 28 年度	4	3	40	
平成 29 年度	3	4	39	
(29 年度退所者)：他施設 1 名、死去 2 名、長期入院 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）（ ）内は重複障害再掲

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
脳性まひ	22	21	20
脳障害後遺症	5	5	6
頸髄損傷	2	2	1
二分脊椎	2	2	2
化膿性脊髄炎	1	1	1
視覚障害	2	3	3
リウマチ	1	1	1
筋ジストロフィー	2	2	2
パーキンソン症候群	1	1	1
多発性硬化症	1	0	0
脊髄小脳変性症	0	1	1
外傷による体幹機能障害	0	1	1
知的障害	(22)	(24)	(22)
精神障害	(1)	(2)	(2)
合 計	39 (23)	40 (23)	39(24)

*最も顕著な障害で分類

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H27 年度	0	0	0	0	2	6	31	39
H28 年度	0	0	0	0	1	8	31	40
H29 年度	0	0	0	0	1	7	31	39

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	0	2	3	9	16	9	39	51.9歳
H28年度	0	2	3	11	15	9	40	51.9歳
H29年度	0	3	2	9	13	12	39	52.4歳

オ 生活介護 利用状況（短期入所利用者の日中利用含む）

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H27年度	313	12,539	40.1	100.2%
	H28年度	312	12,263	39.3	98.3%
	H29年度	313	12,186	38.9	97.3%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H27年度	366	13,993	38.2	95.6%
	H28年度	365	14,039	38.5	96.2%
	H29年度	365	14,048	38.5	96.2%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
パソコン講座	25回	2名	25名
組紐	25回	5名	109名
歌謡舞踊	1回	2名	2名
裁縫	9回	1名	9名
イベント食	1回	12名	12名
サマボラ	1回	2名	2名
秋祭り	1回	22名	22名
そば打ち	1回	3名	3名
合計	64回	49名	184名

(2) 短期入所事業

新規登録者が8名、利用につながった方が3名、そのうち継続利用の方が1名、ショートステイに向けて体験通所利用者が3名となった。また、緊急対応により7名の受け入れを行った。新規希望者も増加傾向にあり、見学対応は行いつつ、入所部門の介護量・支援量とのバランスをみながら各部署と相談し、可能な範囲で利用へとつなげた。地域のショートステイの需要が高いため、より多くの方が利用できるよう全体的見直しが必要であることと、その中で個別の課題に対応していけるよう、職員・相

談支援事業所・福祉事業所との連携をより一層強化してきている。

「緊急ショートステイ受け入れマニュアル」を、実態と擦り合わせて更新作業を行い完成した。各部署が共通認識を持てるよう運用し、より精度を高める。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ 利用日数	1日平均 利用者数	利用率	通所利用 人数	通所利用 延べ日数
H27年度	678	2,717	7.4	92.8%	35	35
H28年度	610	2,557	7.0	87.6%	45	46
H29年度	646	2,757	7.6	94.4%	47	47

(3) 通所生活介護事業 「木の香」

当年度は1日平均7名の利用を目指し特別支援学校生徒を中心に見学、体験実習の受け入れを行い、新規利用者として3名増加した。しかし、退所者が3名発生し1日平均利用は6.5名であった。

個別活動の時間内でグループ活動を実施し、活動のバリエーションが増え個々の利用者に合った活動内容を全体で共有し取り組むことができた。

施設内研修へは参加できたが、外部研修への参加があまりできなかった。医療的ケアに対しての生活支援員の協力体制を整備してきたが次年度に残した。

感染症予防のマニュアルの作成や緊急時対応を職員間で話し合い、リスクマネジメントの強化を図った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	6	3	19	10
平成28年度	0	1	18	
平成29年度	4	3	19	

(29年度退所者)：他施設2名(うち転居1名)、自宅1名

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H27年度	1	16	0	15	2	0	19(15)
H28年度	1	15	0	15	2	0	18(15)
H29年度	1	18	0	16	2	0	19(18)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H27年度	0	0	0	1	4	2	12	19
H28年度	0	0	0	1	3	1	13	18
H29年度	0	0	0	1	2	3	13	19

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H27年度	1	4	4	6	2	2	19	38.4歳
H28年度	1	4	3	6	2	2	18	38.6歳
H29年度	3	3	3	6	2	2	19	38.2歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10	H27年度	241	889	3.7	36.9%
	H28年度	234	1,207	5.2	51.6%
	H29年度	243	1,568	6.5	64.5%

（４）各部門報告

①看護部門

前年度ノロウイルス感染拡大の反省から、感染対策委員会を中心として感染予防（特にノロウイルスの対応）に取り組み、実践はまだできていない部分もあるが、職員の感染予防の意識は上がった。その結果、当年度は施設感染することなく、安心した生活を提供することができた。

職員の医療的知識のレベルアップを図るための教育体制はまだ未確立ではあるが、当年度は看取り体制を整え、実際に利用者を看取ることができた。

当年度も、生活支援員が可能な喀痰吸引等の医療行為の実施と体制整備として、喀痰吸引の有資格者（生活支援員）1名を愛知県に登録した。ただ、施設で看護師と生活支援員がどのように連携・役割分担するかは生活支援員のマンパワー不足もあり、検討できておらず今後の課題である。

入所・通所部門の連携を図り、少しずつであるができるようになってきた。今後もセラピスト会議や看護師会議にて、入所・通所支援体制の見直し、さらに柔軟な対応ができるような仕組みづくり（支援の時間的・量的な問題を整理）を行う。

②セラピスト部門

入所利用者40名に対してのリハビリテーションは理学療法士・作業療法士が連携し、日々変わるニーズや身体状況に対し関係部署・委員会を活用し難渋することもあったが、解決や打開策を常に考え支援を行った。

7月に音楽療法士が入職し順調に支援が進み、10月には集団・個別活動を含めたタイムスケジュールをセラピスト会議にて報告した。それに加えて月1回程度で、音楽療法士やボランティアによる演奏会を実施した。また個別活動での成果を発表する利用者発表会も活動に織り交ぜた。共に好評であり、継続して実施する予定である。

地域の供米田中学校との地域交流音楽会を11月に実施し、生徒のご家族も多数来所され、利用者にも好評だった。

③給食部門

新しい人員体制での業務体制も安定し「安心・安全」な食事提供を行った。より良い給食サービスを目指し、次年度事業計画の「安心・安全・楽しく」へとつなげる。

毎月の各部署主任・班長で行う班長会議では情報共有と現場における困りごとの改善等の取り組みを行い、縦と横の連携強化につながった。非常食マニュアルは防災委員のヒアリングを終え備蓄庫の整理を行った。次年度は、誰でもアクセスしやすく明確な備蓄管理を目指す。衛生面ではノロウィルス対応も踏まえて、感染症にさらに効果の高いアルコール消毒を導入し、部署内での感染予防研修とマニュアル改訂を行った。

④相談部門

新規利用者3名(男性1名・女性2名)、退所者4名(男性3名・女性1名)の移動があった。新規利用者には、同居家族の入院等の事情により自宅生活が困難になった方、福祉ホームでの生活継続が困難になったケースがあった。退所者には、体調悪化により入院され入院先で亡くなられた方、長期入院、施設にて亡くなられた方、医療ケアが必要となり入院し別施設へ入所のため退所となったケースがあった。施設で亡くなられた方に関しては各部署・関係機関と連携し、本人の意思決定とご家族の支援を行った。

新たに紙飛行機のレクリエーションボランティアや、定期パソコンボランティアの受け入れを行い地域とのつながりを持った。また、利用者と共に地域移行に向けての事業所見学や外部講演への付添を行い、それを通して利用者の人となりに触れた。全利用者に向け、社会生活力アンケートを実施し、利用者一人ひとりのなりたい自分について調査を行った。次年度はこの調査に基づき、利用者の関心の高いもの、必要性の高いものを取り上げ、利用者と一緒に考える取り組みにする。

⑤事務部門

収入は通所部門「木の香」の収入アップに伴い、全体では前年比5%の伸びとなった。経費は前年度並みに落ち着いたが、修繕及び設備保守にかかる経費が増えるようになった。開所より6年が経過し設備の不具合が徐々に発生しており、エアコン設備保守の3か年計画を作成し、その1年目となった。今後、施設の設備や備品の管理を計画的に行うことで、利用者の安心・安全を確保する。

利用者の安心・安全のためにリフトの設置や前年度末に設置した防犯設備を活用し防犯訓練の実施をすることができた。

また、職員の就業状況を的確に把握し、業務の効率化、人材の育成を目指しながら職員の年次有給休暇の取得を推進し、職員の労働衛生環境に配慮できる体制づくりを目指したが、まだ部署間の格差が見られ課題となった。

⑥喫茶部門

利用者の憩いの場、コミュニケーションの場になっており、各利用者に応じた食形

態での喫茶メニューの提供を各部署と検討して進めた。毎日 13 時～14 時に各部門からの応援体制や喫茶担当者の育成もスムーズに行えた。

⑦環境部門

各部門と協力し、居室、共有スペースの衛生管理を行った。洗濯については他部署の応援もあり、前年度発生した感染症の対応策を実践し、リスクの軽減を図ることができた。

2 相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

相談員 3 名体制（うち 2 名兼務）で支援を行った。新規契約数は 8 件。サービス等利用計画作成は 120 件、モニタリングは 189 件実施しており、年間目標（サービス等利用計画 100 件、モニタリング 180～200 件）は達成した。事例の特徴としては、福祉人材不足の影響から支援を希望する時間帯にヘルパーが見つからずヘルパー探しに追われる事例、医療依存度が高く福祉サービスの利用が制限される事例、福祉サービス事業所との関係性の持ち方や人間関係に悩む事例などが散見した。また、家族状況も複雑化する中、同居する家族も介護サービスを受けていたり、何らかの障害を抱えていたり、経済的に困窮していたりと、多問題を抱える事例も増えている。個別のケースワーク支援と同時に、さまざまな社会資源の活用、関係機関と連携しながら対応する事例が少なくなかった。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H27 年度	119	203	130	3
H28 年度	120	189	141	5
H29 年度	120	189	105	6

3 障害者就業・生活支援センター事業

『海部障害者就業・生活支援センター』

相談員の異動など人員体制の変化があったが、チームとして支援力の低下、業務の滞りがないうり組んだ。

そのような中で第二期 3 年計画の最終年度にあたり、「更に圏域内に展開する《出す／出る》時期」をテーマとして、ハローワーク・支援機関との連絡会議を毎月開催し、雇用促進セミナーへの参加、企業見学の同行、面接練習会の企画など情報共有するとともに、風通しの良い一緒に動ける関係づくりを行った。特に圏域ハローワークとは、圏域内の役所・役場への支援機関 PR や、窓口に来る支援機関につながっていない障害者に積極的に情報提供してもらうなど、求職者の裾野を広げる活動を協力して行った。

一方で、特別支援学校や一般校、就労移行支援や就労継続支援 A 型といった福祉サービス事業所、相談支援事業所、行政機関への「障害者就業・生活支援センター」の知名度は上がってきている。今後はこの地域の中での役割や位置づけを把握していきながら、PRすることで事業の価値を高める。

内部的には、これまで行った交流会などの取り組みや、使用してきた書類様式の再検討を行った。予てより検討してきた精神の方の交流会は 12 月と 3 月に開催することができた。また過去 3 年に遡り相談記録のない登録者に、引き続き登録の継続を希望するかアンケートによる確認を行った。次年度以降、さらに改善や仕組みづくりを行う。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別) (件)

センターへの来所 (本人のほか、家族等も含む)	632
電話・Fax・E-mail (本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む)	2,622
職場訪問 (定着支援のほか、職場実習支援を含む)	548
家庭・入所施設への訪問	89
その他 (ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	640
合 計	4,531

※「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き etc)、受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学、年金相談、手帳取得、自己破産など
--

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別) ※ ()内は前年度実績(件)

	身 体	知 的	精 神	発 達	難 病	高 次 脳	そ の 他	合 計
平成 27 年度	336	871	780	345	3	59	204	2,598
平成 28 年度	667	1,265	1,183	717	5	55	550	4,442
平成 29 年度	485	1,259	1,422	920	18	66	361	4,531
H 29 年 度 内 訳	就職に向けた相談・支援 (514)	560 (526)	811 (665)	551 (429)	14 (0)	30 (25)	221 (322)	2,572 (2,481)
	職場定着に向けた相談・支援 (84)	524 (482)	432 (292)	322 (205)	0 (2)	29 (21)	73 (99)	1,464 (698)
	日常生活、社会生活に関する相談・支援 (14)	21 (74)	34 (54)	4 (16)	0 (0)	1 (3)	15 (43)	76 (196)
	就業と生活の両方にわたる相談・支援 (55)	154 (183)	145 (172)	43 (67)	4 (3)	6 (6)	52 (86)	419 (255)

VII 名古屋盲人情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

当年度初めより、衆議院議員選挙がいつ行われてもおかしくない状況であったため、点字版・録音版選挙公報の制作体制を整えるよう準備を行い、実際の10月衆議院議員選挙では、日本盲人福祉委員会選挙プロジェクトの協力も受け、無事作業を終えることができた。5月には定例の用具展を開催し、来場者数は約300名となり大盛況であった。9月には図書館・用具説明会を開催。今年は午前と午後の2部に分け、午前には各区の名古屋市福祉コンシェルジュに、午後は通常の市町村や関係機関関係者を対象に開催し、当センター活動の広報に努めた。また、次年度開始の歩行訓練事業に向け、名古屋市への助成依頼等準備を進めた。

ここ数年でセンター職員が減少していたため、5月に正規職員2名、パート1名を採用し、さらに退職者のため2名を補充した。また、数年内に工事が必要とされていた高圧電気設備の修繕と、施設内の傷んだ窓ブラインド、巾木や床面の部分修繕整備を行った。

図書館事業部では、愛盲報恩会視覚障害者文庫の新しい書籍の追加や目録作成を行った。また前年度より進めていた利用登録更新の最終処理も済み、登録状況の整理ができた。

サービス事業部では、用具販売が一年を通して好調で、前年を上回る売上を達成することができた。主要な物としては、拡大読書器やテレビ放送が聞けるラジオ、新型プレクストークなどが挙げられる。

点字出版部では「指で親しむ世界の国旗 改訂第3版」を発刊し、オリンピック・パラリンピックの影響もあって、順調に注文が入っている。

1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			
	職員総数	うち 視覚障害者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H27年度	19	5	120	110	60	290
H28年度	19	5	127	110	68	305
H29年度	21	6	126	101	63	290

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H27年度	49	1	48	2
H28年度	36	1	35	2
H29年度	34	1	35	0

2. 図書館事業部

(1) 生きた書棚のための蔵書管理

利用者に迅速かつ正確な図書情報の提供と貸出返却作業の効率化のため、サピエ書誌、イントラ書誌、書庫の現物を一致させる作業を前年度に引き続き実施した。

- ①厚生労働省委託点字図書等の委託・寄贈図書の整理：書庫内に点在する蔵書登録されていない委託図書類を把握し、まずは廃棄するもののリストアップから着手した。
- ②データ化した点字図書データの整理と書誌情報の照合：過去のボランティアの実績入力もすべて含め 12 月末で完了。トータル 15 年ほど要した作業は無事終了を迎えた。今後は日々の業務の中で出てきた書誌・データの修正など適宜行う。
- ③利用登録更新の最終処理：昨年度実施した利用登録更新において更新連絡のなかった利用者に最終確認を行い、その上で利用登録取り消しが確定した利用者のサピエ個人会員退会手続き、雑誌や「みちしお」の定期利用削除の作業を実施。8 月末までに完了した。宛先人不明や連絡不通の利用者が格段に減ったことで作業の効率化が図れ迅速な情報提供につながった。

(2) 「愛盲報恩会視覚障害者文庫」の本格的な運用

- ①愛盲報恩会より委託を受け、平成 28 年秋に開設した文庫の本格的な運用のため書誌と書庫内の現物の照合を進める予定だったが、部署内の職員の入退職等あり、着手ができなかった。次年度改めて取り組む。
- ②職員などから日々情報収集を行い、視覚障害関連書籍を 39 タイトル購入し、文庫に加えた。

(3) 発達障害等、視覚表現の認識に困難のある方（B会員）への情報提供拡充

①B会員増加のための情報発信（B会員 100 人プロジェクト）

- ・わいわい文庫（マルチメディアダイジー）の作成：愛知の昔話として「かしき長者」を選び、イラストは「まんが甲子園」で実績のある豊明高校へ依頼した。1 月に完成し豊明高校には伊藤忠財団より感謝状が贈呈され地元新聞にも取り上げられた。
- ・公共図書館への協力依頼：7 月 7 日、障害者差別解消法に関連して依頼を受けた尾張部公共図書館連絡協議会の定例会において読書障害児の読書環境向上を中心に話をした。
- ・ぼらマッチへの参加：6 月 23 日、愛知学院大学名城公園キャンパスで開催されたぼらマッチに今年も参加。今回は特に、利用者増につながる福祉関係者への PR 効果を狙いアピールを行った。
- ・3 月 30 日、名古屋ディスレクシア協会の協力を得て読書障害を持つ子どもを対象にキーボード体験会を行い、6 名の参加のうち 4 名が B 会員として利用登録した。内容をキーボード入力に限定したことでやる気や意欲を刺激でき、まずはいろいろ試してみるためにも利用登録してみようという雰囲気をつくれた。実際の利用につなげていけるよう引き続きフォローする。

②UDキャスト体験会など新しい情報環境への積極的取り組み

- ・UDキャスト体験会の開催：サービス事業部のMAJとして9月に企画したが、悪天候のためやむなく中止となった。
- ・庄野アナ特別講習会&交流会の開催：9月25日、東海テレビアナウンサーの庄野氏を講師に招き、「発声の視点からのコミュニケーション講座」を開催。合わせて第2部としてボランティアと利用者の交流会を実施した。

(4) プライベート資料の制作、および対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストーク個人講習の実施

各種資料・教養講座のテキスト・家電の取扱説明書等、個人持ち込みの「プライベート制作物」の点訳・音訳・テキスト化を速やかに行うよう努めた。また視覚障害者の情報保障の一助として当施設内にてマンツーマン形式の対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストークの個人講習を引き続き実施し、内容の充実を図った。

(5) 点訳者・音訳者等、情報支援者の育成と研修

利用者へのサービス提供を良質かつ安定的に実施するため、ボランティア向けに引き続き点訳・音訳関連の各種研修会・会議を開催した。

- ①点訳では7月に受講者募集を行い、10月より10名で養成講習会を開始し、3月末に9名が講習を修了した。(内7名が次年度開催のフォローアップ講習に進む予定)
- ②音訳では6月に受講者募集を行い、9月より10名で養成講習会を開始し2月末に10名が講習を修了した。
- ③テキストデージー、テキスト化では個人依頼のプライベート制作物に取り組むことで各人のスキルアップに努めた。

(6) 実績資料

①蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H27年度	8,049	31,665	5,179	31,807	8,995	9,172
H28年度	9,103	35,614	5,340	32,517	7,879	7,881
H29年度	9,493	37,101	5,325	32,417	8,085	8,088

②新規制作図書

ア 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数 (内リクエスト)	冊数	タイトル数 (内リクエスト)
H27年度	294 (15)	1,219	203 (76)
H28年度	295 (14)	1,925	174 (61)
H29年度	293 (11)	1,147	165 (61)

イ 雑誌

	点字		録音 (CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月
H27年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル
H28年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル
H29年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル

ウ プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H27年度	71	129	11
H28年度	49	81	8
H29年度	28	35	9

エ サピエデータアップ状況

	点字データ		デジータデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H27年度	340	1,443	266	2,347時間 10分
H28年度	315	2,028	241	1,835時間 11分
H29年度	305	1,159	232	1,833時間 29分

③ボランティア養成

ア 点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ講習	英語点訳
H27年度	1講座 22回 延べ 171名	—	1講座 20回 延べ 100名
H28年度	—	1講座 38回 延べ 256名	1講座 22回 延べ 110名
H29年度	1講座 21回 延べ 174名	—	1講座 22回 延べ 110名

イ 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者 養成講習 (フォローアップ)	デジター編集者 養成講習
H27年度	22回 145名	4回 54名	1回 12名	—
H28年度	22回 226名	4回 59名	1回 5名	5回 33名
H29年度	22回 207名	5回 56名	—	—

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
H27年度	4回 143名	31回 737名	5回 43名
H28年度	4回 140名	32回 772名	6回 49名
H29年度	4回 129名	32回 763名	6回 47名

④貸出

ア 登録者

	個人 (内・サピエ)	団体
H27年度	2,501 (591)	567
H28年度	A会員 2,185 (570) / B会員 22 (12) 合計 2,207 (582)	526
H29年度	A会員 2,165 (569) / B会員 24 (11) 合計 2,189 (580)	519

※表中の A 会員とは「視覚障害者」、B 会員とは「視覚表現の認識に困難のあるもの」である。著作権法第 37 条第 3 項の規定によりいずれも当施設のサービス対象者。

イ 利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延べ利用者	実利用者	延べ利用者	実利用者	延べ利用者
H27年度	234	2,748	146	1,127	766	19,530
H28年度	232	3,182	148	1,086	761	31,371
H29年度	236	3,225	131	910	736	30,862

ウ みちしお購読者数

	点字	デジター	墨字	メール 分割	メール 添付	総数	実数
H28年度	344	442	396	283	52	1,517	1,376
H29年度	326	413	375	276	60	1,450	1,315

エ 資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H27年度	3,097	7,193	1,249	5,987	31,124	31,170
H28年度	3,182	6,725	1,086	4,230	31,371	31,397
H29年度	3,225	6,540	910	3,317	30,862	30,904

オ オンラインリクエスト

	リクエスト 送信数(施設)	リクエスト 送信数(個人)	リクエスト 送信数(合計)	リクエスト受信数 (施設・個人合計)
H27年度	1,593	2,529	4,122	5,990
H28年度	1,391	2,085	3,476	6,156
H29年度	1,283	1,788	3,071	5,923

カ コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H27年度	14,751	61,299	209	24,860
H28年度	13,552	53,177	209	22,595
H29年度	28,538	127,732	186	41,536

キ コンテンツ利用状況集計(音声デイジー)

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用者	再生 延べ 利用者	ダウン タイトル数	ダウン 時間	ダウン 実利用者	ダウン 延べ 利用者
H27 年度	13,193	10,276 時間 31分	155	37,672	26,351	212,045 時間 30分	370	144,470
H28 年度	11,244	11,056 時間 29分	162	30,185	26,970	214,174 時間 10分	385	146,355
H29 年度	11,143	16,746 時間 53分	164	29,045	27,148	211,312 時間 41分	378	156,294

ク デイジーオンライン

	A会員		B会員		合計	
	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数
H27年度	2	35	0	0	2	35
H28年度	3	5	0	0	3	5
H29年度	4	19	0	0	4	19

⑤情報提供

	ホームページ 訪問者数	テレホン サービス	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メールマガジン たこ通信	メールマガジン ほっと タウンナビ
H27年度	10,933件	902件	30名	6回 269名	195件	—
H28年度	11,842件	975件	32名	9回 237名	265件	136人
H29年度	12,045件	804件	32名	8回 272名	242件	146人

	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨 訳サービス	利用者向け プレストーク 個人講習	利用者向け プレストーク 操作体験会
H27年度	19,600枚	4件	10件	6回 6名(6名)	2回 10名
H28年度	34,752枚	2件	15件	4回 4名(4名)	—
H29年度	34,848枚	2件	12件	4回 4名(3名)	—

() 内実人数

3. サービス事業部

(1) 社会参加・活動支援

引き続き点字触読定期学習会を毎週1回、社会生活力を高め、生活を豊かにするための情報提供・学習の場である、「MAJ講座」を月3回程度開催した。MAJは対象の領域を広げ1講座の教室も複数にして参加の機会を増やした。MAJ(みんなあつまれ じょうぶんへ)の名の通り、センターへの集客イベントとしての役割、利用者への情報提供・レクリエーションの場としての役割を果たした。

また、継続して相談支援を実施するとともに、中途失明者緊急生活訓練事業(補助事業)において点字学習以外に「料理・お菓子教室」、「ピアカウンセリング講座」を実施した。

①MAJ(みんなあつまれ情文へ)講習

	回数	延べ人数
H27年度	32回	186名
H28年度	36回	157名
H29年度	41回	205名

②相談支援

	相談支援		合計
	継続支援(件)	新規支援(件)	
H27年度	105	69	174件(実人数 81人)
H28年度	88	100	188件(実人数 105人)
H29年度	86	81	167件(実人数 88人)

	生活	マニ ケーション	就労	学 業	ピ ア ン	家 族	ロービ ジョン	移動	そ 他	計 (件)
H27 年度	67	17	10	17	2	56	9	2	19	199
H28 年度	63	14	12	0	84	10	1	12	32	228
H29 年度	59	16	22	1	33	10	2	12	26	181

*相談内容によって複数の項目でカウント

③中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	講座数	延べ人数
H27 年度	43 回	17 名	5 名	20 名	12 回	70 名
H28 年度	44 回	17 名	7 名	15 名	11 回	53 名
H29 年度	46 回	19 名	6 名	13 名	11 回	54 名

(2) 用具斡旋販売事業

視覚障害者の毎日の生活が豊かで便利になるような小銭入れ、パスケース、計量カップ等の新商品の開拓・紹介を積極的に行った。利用者へ補装具の制度・用具商品説明を丁寧にわかりやすく行うとともに、利用者の居住地に用具を紹介・説明できる社会資源を増やすことを目的として、関係機関向けの用具・図書館サービス説明会を開催し（5年目）、広く周知に努めた。

訪問販売では、これまでの盲学校、光和寮などの法人内施設や名古屋市総合リハビリテーションセンター等の関連施設に加え、地域の視覚障害者サークルや患者団体のイベントへ出かけ、当事者への用具の販売・情報提供を行った。

	読書支援機器			
	プレイストア(録音・再生)PTR2	プレイストア(再生専用)PTN2・3	拡大読書器	小型プレイストア PTP1・リンクポケット
H27 年度	50	33	68	35
H28 年度	44	28	61	34
H29 年度	14※	49	65	37

※PTR3 が平成 30 年年 6 月販売予定

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト 1 位	ソフト 2 位	ソフト 3 位
H27 年度	385	ネットリーダー(26)	PC-Talker(46)	MyBookⅢ(13)
H28 年度	404	ネットリーダー(36)	PC-Talker(33)	MyBookⅢ(7)
H29 年度	381	PC-Talker(30)	ネットリーダー(29)	MyBookⅢ(9)

(3) IT 訓練支援

パソコン・スマートフォンの個人講習や相談に積極的に応じるとともに、ソフト活

用の情報発信・体験会活動も行った。就労支援として、障害者職業能力開発校の委託訓練に取り組むとともに、愛知障害者職業センター、NPO 法人ターゲットに加えて、光和寮就労移行支援事業、名古屋市総合リハビリテーションセンター、名古屋市視覚障害者協会とも連携して相談支援・シンポジウム開催に取り組んだ。就学支援では、長期休み期間を中心に盲学校生徒の個人指導に取り組んだ。

その他に日本盲人会連合総合相談室の相談員、アビリンピック愛知大会の競技委員を務め、外部との連携の一つとした。

	相談 (延べ人数)	個人指導 (延べ人数)	集団指導 (延べ人数)
H27 年度	1,013	293	94
H28 年度	982	218	50
H29 年度	773	241	134

(4) 地域支援

引き続き小中学校等の福祉実践教室をはじめ、ガイド・点字体験、施設見学などの対応を行うとともに、社会福祉協議会等の関係機関が開催する関連講習会等に職員・ボランティアを派遣し、地域の視覚障害者に対する啓発活動を行った。

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H27 年度	5	18	23	4	14	18 件 143 名
H28 年度	6	16	22	1	11	12 件 97 名
H29 年度	6	22	28	5	18	23 件 165 名

4. 点字出版事業部

当年度初めには引継ぎなどの影響で、発送ミスなどのトラブルもあったが、素早い対応により何とか乗り越えることができた。

また、10月の衆議院議員選挙においては、点字版の制作が実施できるか非常に不安な状況ではあったが、現場職員からの提案や他拠点からの協力もあり、問題なく果たすことができた。

年度全体として、事業計画にあげた「やまびこ読者増加」については、目標の5名増とはいかなかったが、2名増と減少傾向のある点字の定期刊行物としては結果が残せた。前年度、手が付けられなかった「デイジー版100選の再編集」は計画的に進め、目標に近い数を達成することができた。新規出版物においても「指で親しむ世界の国旗 改訂第3版」を発刊することができ、全国各地から注文を受けている。

4月より点字出版部の定例会議を月1回実施しており、この中で、職員がさまざまなアイデア・改善策などを挙げ、全員で検討・議論して、サービス向上へとつなげている。

売上としては、衆議院議員選挙があったが、それ以外の大口受注はそれほど多くは

なかったため、予測より若干の減少となった。また、国立国会図書館よりセンターの出版物すべての納本を求められたため、納本可能な「井出孫六が選んだ15歳までに読んでおきたい少年少女文学100選」(デイジー版)を含めた出版物(録音版)114タイトルを納品した。年々進む視覚障害者の点字離れにより、音声版の受注は増えているが、点字出版物が減ってきているため、売り上げにも影響している。一方で、点字案内板やプレート、点字名刺の受注はかなり増えてきているため、障害者差別解消法などにより社会的な受け止め方も変化してきていると思われ、それらをきちんと把握し、どのように今後展開するかを検討する必要がある。

(1) 点字出版物制作

①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	触図カード	年賀状 点図シール	一筆箋	ポチ袋
H27年度	993冊	13タイトル	0タイトル	130枚	1,307枚	36冊	293枚
H28年度	955冊	7タイトル	0タイトル	148枚	1,373枚	149冊	257枚
H29年度	967冊	37タイトル	114タイトル	123枚	1,076枚	98冊	207枚

②受注制作物(定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市(広報なご や・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H27年度	192,802枚	12,183枚	49,420枚	生徒1名 1科目
H28年度	182,146枚	9,918枚	46,492枚	—
H29年度	163,705枚	10,213枚	37,628枚	—

③その他受注制作物 ※H27一般企業の制作物に電話帳があり枚数が突出している

	名古屋市はじめ市町村 (行政資料等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・メニュー等)	選挙情報 (名簿・投票用紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガス・水道)	点字 名刺
H27年度	16件 72,059枚	42件 40,046枚	20件 275,713枚	62件 31,784枚	5,243枚	177名 24,810枚
H28年度	18件 32,992枚	59件 78,067枚	25件 90,468枚	24件 254,539枚	8,452枚	186名 29,653枚
H29年度	37件 63,323枚	53件 34,714枚	22件 55,600枚	54件 110,632枚	7,134枚	241名 32,576枚

④音声版受注制作物（デ→デイジー・音楽CD版、カ→カセットテープ）

	名古屋市（広報なごや・市会だより）	その他名古屋市	施設・団体・一般企業	選挙公報
H27年度	デ 4,505 枚 カ 919 本	デ 402 枚 カ 1,144 本	デ 101 枚	3 選挙 デ 386 枚 カ 258 本
H28年度	デ 4,689 枚 カ 2,465 本	デ 32 枚 カ 539 本	デ 711 枚	2 選挙 デ 618 枚 カ 313 本
H29年度	デ 4,774 枚 カ 714 本	デ 593 枚 カ 137 本	デ 12 枚	2 選挙 デ 3,729 枚 カ 1,916 本

(2) 点字技術支援（点字サイン・UV加工等）

	点字案内板・プレート	鉄道駅構内触図案内板	鉄道駅手すり案内板	鉄道駅運賃表	タクシー車内シール	UV加工
H27年度	2,048 枚	13 駅 16 枚	232 本	2 駅 2 冊	390 枚	1,256 点
H28年度	2,771 枚	14 駅 18 枚	34 本	1 駅 1 冊	138 枚	315 点
H29年度	3,603 枚	0 駅 0 枚	5 本	3 駅 4 冊	207 枚	284 点

5. 利用者及び地域住民との交流事業

10月29日（日）に開催予定であった港区ふれあい広場は、台風のため中止。「情文ともの会」ボランティアで行うバザーを急遽、光和寮の地域福祉フェスティバルにて実施した。

6. 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会（中部ブロック）、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会の会員として、委員を派遣するとともに会議、研修会などに積極的に参加・協力をした。

名古屋市視覚障害者協会（名視協）、名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、愛知障害者職業能力開発校、愛知視覚障害者援護促進協会、東海音訳学習会など中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。

VIII 瀬古マザー園拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』

短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

当年度は「利用者一人ひとりに生活の中で『喜び』を感じていただく」「稼働率の向上」の二つをテーマとして取り組んだ。

利用稼働率は、特養、盲養護、瀬古デイ、居宅介護支援が前年度比で向上、ショートと矢田デイが低下となり（詳細は各事業参照）、拠点全体では前年度比約 750 万円の増収（事業活動計算書サービス活動収益計）となった。中でも特養と矢田デイの稼働率向上は今後も大きな課題である。

特養では、補助金を活用し居室の準個室化工事を実施。ショートステイも同様の工事を行い、ともに大きな環境改善ができた。

拠点内会議のあり方や組織の見直しを行うとともに、毎日の全体朝礼開始や法人理念の唱和を全部署で実施。また、職員の勤務時間と休日数を法人内他施設に揃えて変更した。（1日の勤務時間が5分延び、休日が年間3日増えた。）

地域貢献活動については、地域で行われている各種活動と地域ニーズを調べるプロジェクトチームを発足し調査を実施。また、養護の利用者を主役とした小中学校への出張福祉講座も開始した。

1年を通して求人活動に多くの労力と経費を費やしたものの、職員確保には苦慮し、各現場に負担をかけることとなった。今後も人材確保は重要課題の一つである。

1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

当年度の利用稼働率は、91.4%（前年度比+2.1ポイント）となった。在籍者での稼働率は98.6%だったが、入院数が多かったこと、また退所から新入所までの期間に空床があり、前述の結果となった。「食事の経口摂取ができない」「痰の吸引等の医療的処置が必要となった」等の理由で療養型病院へ移り、退所となったケースが退所者の約80%となっており、今後施設として医療的処置の方への対応や「看取り介護」の実施が課題となった。

認知症ケア、個別ケアの実践や利用者及び職員のための環境改善等を目指し「職員資質向上」「サービス体制等見直し」「環境整備」「職員連携促進」の各チームを編成、全職員がいずれかのチームに所属し活動した。個別介護マニュアルの作成や24時間アセスメントシートへの挑戦、各種設備改善などに取り組んだが課題も残った。

下半期には補助金を活用して居室の可動間仕切り設置等改修工事を実施。よりプライバシーに配慮した環境となり、居室環境も向上した。

年間を通じて介護職員の確保は課題となり、夜勤回数増加や業務過多により職員に負担がかかった。今後も職員確保には力を入れる。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 27 年度	9	14	55	60
平成 28 年度	18	16	57	
平成 29 年度	18	17	58	
(29 年度退所者) : 療養型病院 14 名、死亡 1 名、医療機関 1 名、他施設 1 名				

イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 要介護度
H27 年度	2	7	21	18	7	55	3.5
H28 年度	1	6	20	18	12	57	3.5
H29 年度	1	3	30	13	11	58	3.5

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
60	H27 年度	366	20,370	55.7	92.8%
	H28 年度	365	19,553	53.6	89.3%
	H29 年度	365	20,009	54.8	91.4%

2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

収入のベースとなる毎月 1 日の在籍者数は、1 月を除いて定員 50 名を確保できた。入退所は、前年度（9 名）より少なく 6 名の入れ替わりとなった。待機者は 3 月末現在で 5 名となっている。

当年度は、要介護認定を受ける入所者が増加し、前年度末の 10 名が当年度末には 17 名となり、入浴や活動のためのデイサービスの利用や居室などの清掃を目的とした訪問介護を利用している。一方で、同行援護や生活介護等の障害福祉サービスの利用も増加しており、外出の機会がさらに増え生活の質の向上につながっている。

当年度初めて福祉教育への取り組みを守山区社会福祉協議会と連携して実施し、守山区内の小学校と中学校、各 1 校ずつに計 3 名の入所者が訪問し、講演等を行った。準備段階から入所者自身が内容を考え、修正しながら職員と何度も練習を繰り返し臨み、児童・生徒から感想文をいただくなどの反響もあり、入所者にとっても非常に良い経験となった。地域貢献活動の一つとして、今後も継続していきたい。

介護予防の取り組みとしてリハビリ体操や、歩行訓練を兼ねた散歩を定期的にも実施した。週 3 回以上実施を目指し、入所者も「運動を定期的に行う」という思いが定着した。積極的に参加されない入所者には直接お誘いするなどして、参加を促した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 27 年度	3	3	50	50
平成 28 年度	9	9	50	
平成 29 年度	6	6	50	
(29 年度退所者) : 在宅 1 名、医療機関 3 名、介護保険施設 1 名、死亡 1 名				

イ 施設利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
初日在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	50	50	—
入所	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	6
退所	0	1	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	6

ウ 視覚障害等級別状況

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	非該当	計
H27 年度	32	15	2	1	0	0	0	50
H28 年度	31	16	2	1	0	0	0	50
H29 年度	31	16	2	0	0	0	1	50

エ 要介護度状況 (年度末時点)

	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
H27 年度	40	1	1	2	5	1	0	0	50
H28 年度	40	1	2	2	4	0	0	1	50
H29 年度	33	2	7	4	2	2	0	0	50

3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

当年度の稼働率は、97.2%（前年度比△3.2 ポイント）となった。年間を通して、ほぼ毎月目標値（78%）を達成。施設内感染症発生の影響に伴う施設都合キャンセルにて 4 月・5 月・12 月の稼働率が 70～80%に落ち込んだものの、それ以外の月は 90%以上を維持することができた。

体調不良者を含めた緊急時の受入れ、特養空床活用を行うことにより、ショートステイ単体としての利用率はほぼ安定している。また、広報活動やケアマネとの信頼関係の構築に伴い、当施設ケアマネ以外からの新規紹介ケースが増えていることも、稼働率向上の一因と思われる。

特別養護老人ホームの居室改修工事に合わせてショートステイ用の居室も可動間仕切り設置工事を実施し、よりプライバシーに配慮した環境が整った。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
平成27年度	8	4	17	4
平成28年度	19	7	15	
平成29年度	16	10	15	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H27年度	0	0	2	7	6	2	0	17
H28年度	1	0	0	5	5	4	0	15
H29年度	1	1	1	1	8	2	1	15

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
4	H27年度	366	1,172	3.2	80.1%
	H28年度	365	1,466	4.0	100.4%
	H29年度	365	1,419	3.9	97.2%

4 高齢者デイサービス

(1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

当年度年間延べ利用者数 6,314 名(前年度 5,827 名)、1日平均利用者数 20.7 名(前年度 18.8 名)、年間平均稼働率 69.0%となり、平成元年の開設以来最高となった。4月の稼働率は 65%程だったが、新規利用者の増加で 7 月から 12 月の月間稼働率が 70%以上となった。1 月に入り感染症の拡大や体調不良者等の増加により稼働率 70%を下回るも、年間稼働率 69.0%と前年よりプラス 6.1%となった。

職員の欠員により広報活動に時間が割きにくい状況が続いたが、前年度中の広報活動の成果もあり新規の利用者の紹介も多く、稼働率向上につながった。

サービスに関しては、インターネット回線を使用した機器によるレクリエーションの準備を進めたが、回線や機器の不備等もあり運用には至らなかった。次年度早々には問題を解消し、新たにタブレット機器等の導入を図り、サービスと業務改善を行う。また、新たに地域ボランティアによる創作レクリエーションを開始し好評を得たため、今後も継続する。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
H27年度	17	10	48	30
H28年度	23	25	52	
H29年度	20	22	49	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H27年度	3	6	11	19	8	2	0	49
H28年度	6	5	11	14	13	2	1	52
H29年度	2	6	15	11	11	4	0	49

ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
30	H27年度	309	6,102	19.7	65.8%
	H28年度	309	5,827	18.9	62.9%
	H29年度	305	6,314	20.7	69.0%

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

当年度年間延べ利用者は4,938名（前年度5,208名）、1日平均利用者数は16.0名（前年度16.9名）と前年度と比較し利用者数も収入も減少している。

年度当初に施設入所による契約解除が相次ぎ、6月には稼働率50%を切る状況となった。この状況を受けて新規利用者確保を目指し、送迎車への無料体験募集広告の作成・掲示、広報活動状況の分析と継続的な関係先への訪問を実施した。サービス面では活動メニューの充実・改善（外部講師による音楽療法導入、パート職員主体の新規活動メニューづくり等）、利用人数が少ない曜日への目玉行事の投入、短時間（3～5時間）利用希望者の受け入れ体制整備を図り、また、盲養護からの利用者の受け入れ等を実施した。

一時、稼働率の回復傾向が見られ、12月には62.9%に到達したが、1月以降、再び体調不良による欠席や施設入所による利用解除が相次ぎ、3月の稼働率が53.0%となり厳しい状況が続いている。

次年度については、最重要課題である稼働率の改善に向けて、組織体制も変更し広報活動を強化するとともに、サービス内容の見直しや新たな取り組み（運動メニューや運動機器、共生型サービスなど）について積極的に検討し、実行する。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
H27年度	7	14	52	30
H28年度	11	12	45	
H29年度	22	27	42	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H27年度	2	10	10	18	4	2	6	52
H28年度	1	6	7	16	9	3	3	45
H29年度	1	5	9	17	9	1	0	42

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
30	H27年度	309	5,715	18.5	61.7%
	H28年度	309	5,208	16.9	56.2%
	H29年度	309	4,938	16.0	53.3%

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業』

当年度のケアプラン作成件数は1,162件（前年度1,084件）で前年度比107%となった。上半期から積極的に新規の受け入れを図ってきた成果が表われ、11～12月は月間の稼働率が100%を超えた。内訳としては総合事業の利用者9.5%、要支援19.3%、要介護71.2%と要介護者が前年度に比べて3ポイントほどダウンをしている。収入面では要介護者を増やしたいところだが、いきいき支援センターとの良好な関係づくりも重要なため、ある程度総合事業対象者も受け入れた。

前年度下半期が集中減算対象となったことを踏まえ、当年度は適切なサービス調整に努めたことで年間を通じて減算対象とならず増収につなげることができた。

新たにケアマネジャーを採用し、これまでより1名増の3人体制が1月より開始、新規利用者の受け入れも可能となったため余裕を持った対応が可能となっている。

ア ケアプラン作成件数

	総合事業	要支援	要介護	合計（件）	利用率
H27年度		287	749	1,036	94.1%
H28年度	30	245	809	1,084	98.3%
H29年度	109	225	828	1,162	88.2%
4～12月（2名体制）		(167)	(605)	(772)	(96.8%)
1～3月（3名体制）		(58)	(223)	(281)	(70.9%)

※利用率の算定には総合事業の件数は含まず、ケアマネ1名について件数上限が変動するため利用率が変動する。

6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

当年度は、会館利用者の声も参考に1階和室の建具修繕や軽量座卓への更新、階段下エリアおよび園庭の整備等を実施した。また新たに名古屋市內中学生の学習支援事業の場として契約を結ぶなど、地域のふれあいセンターとして利用の幅も拡大している。年々施設利用者も増加しており、収入面でも前年度比5%余りの増加となった。

引き続き、会館の維持管理、運営について利用基準の適切な運用に心がけ公益事業としての役割を果たす。

ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
H27年度	389	8,680	33
H28年度	385	7,869	33
H29年度	481	9,169	34

7 ボランティア受け入れ状況

学校関係

団体名	1回あたり参加人数	活動日	活動内容	年間延べ活動人数
守山西中学校	—	8、11月	入所者・利用者とのふれあいジャズアンサンブル披露	225名
Mirai こども園 よつ葉こども園	20名程	6、7月	歌の披露、利用者とのふれあい	43名
高等学校（夏季）	—	8月	夏期高校生ボラ活動	12名

団体

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延べ 活動人数
グループあすなろ	5～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	73名
アンサンブルドリーム	7名	5月	演奏会	7名
愛知県理容生活衛生 同業組合（守山支部）	5～6名	毎月第1水曜	理髪奉仕（有償）	55名
点字ボランティア	約4名	毎月1回	毎月の行事予定・献立の点訳	48名

個人

項目	活動日	活動内容	年間延べ 活動人数
書道指導	月1回	書道クラブ(瀬古入所者・矢田利用者)	11名
俳句指導	月1回	俳句クラブ	12名
音楽指導	月2回	音楽クラブ	23名
時計店	月1回	入所者時計修理	12名
美容	月3回	個別美容	24名
音楽療法	月2回	特養入所者・デイ利用者へ音楽療法 (有償)	23名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	11名
裁縫ボラ	随時	養護・特養の繕い物作業	29名
施設ボラ	随時	話し相手、個別訪問、お手伝い	3名
盆踊り指導	6月～8月	ダンスクラブ(1回当たり約4～5名)	28名
演奏会	随時	瀬古デイ	3名
夏祭り	7月	入所者介助	7名
ふれあい祭	11月	地域交流会にて	43名

ボランティア総数（延べ人数）	692名
年間1日あたり人数	1.9名